もっと日本を。もっと世界へ。

國學院大學

神道文化学部

Faculty of Shinto Studies

令和8(2026)年度 ガイドブック

令和８年度

國學院大學神道文化学部
神道文化学科 ガイドブック

目　次

新入生の皆さんへ

神道文化学部長　黒﨑浩行 …… 1

Ⅰ　理念と特色 …… 2

神道文化学部の教育研究上の目的 …… 2

ディプロマ・ポリシー …… 2

神道文化学部の特色 …… 3

教員紹介 …… 4

神道文化学部の行事 …… 14

奨学金制度 …… 16

学部神社実習生制度 …… 17

Ⅱ　奉職・就職 …… 18

神社関係の奉職について …… 18

神道研修事務課からのお知らせ …… 18

就職について …… 20

各種講座について …… 20

Ⅲ　カリキュラムと履修 …… 21

履修について …… 21

神道文化学部のカリキュラム …… 22

カリキュラム・ポリシー …… 23

専門教育科目一覧 …… 24

専門教育科目の履修について …… 26

履修モデルについて …… 26

神職資格課程を取得する場合 …… 27

明階総合課程について …… 27

宗教文化士について …… 30

演習について …… 31

資料室・修学相談室について …… 32

オフィスアワーについて …… 32

Ⅳ　入学案内 …… 33

アドミッション・ポリシー …… 33

神道文化学部の入試制度 …… 34

オープンキャンパス …… 36

新入生の皆さんへ

令和８年４月、神道文化学部は開設24周年を迎え、いよいよ25年目に入ります。今年度の新入生から、フレックスA(夜間主)コース、フレックスB(昼間主)コースの区別がなくなりますが、７時限制の開講講座・時間割のもと、引き続き、多様なライフスタイルや志向性に応じて授業を履修することが可能です。

カリキュラムも一部変更を加えています。実践力を身に付けた神職の養成に向けた科目・コースの新設、基礎力を培い、現代社会で活かせる宗教文化関連科目の新設、きめ細かい指導と国際化のための基幹演習科目のセメスター化、この３つが変更の骨子です。

今、全国各地の神社は、日本社会全般と同じく、少子高齢化・人口減少や災害の多発といった厳しい環境に置かれています。その一方で、日本古来の信仰、伝統文化の発信拠点としての神社への注目度はますます高まっています。神職として神社に奉仕するさいには、その両面に向けた知識と実践力が求められており、この目標に特化した「実践的神職養成特別コース」を設けます。

神道文化学部は、国内外の宗教文化を幅広く学ぶための授業科目を多く開講してきましたが、宗教現象へのさまざまな学問的アプローチや先端的なトピック、自らフィールド調査を行うための方法を学ぶ機会は必ずしも十分ではありませんでした。これらを扱う科目を新設することで、皆さんの学びをしっかりと支えます。

３・４年次には基幹演習科目という、学びの集大成となる演習論文を完成することを目指す授業科目を置いていますが、これを通年科目からセメスター(半期)科目にすることで、よりきめ細かい段階的な指導ができるようにしていきます。同時に、短期留学や留学生への対応もこれまで以上に柔軟に行います。

私たち神道文化学部の教員一同は、この新しいカリキュラムのもとで、皆さんを神道文化・宗教文化の充実した学びに誘うことをとても楽しみにしています。

神道文化学部長　**黒﨑　浩行**

Ⅰ　理念と特色

神道文化学部の教育研究上の目的

神道文化学部は、神道を中心とする日本の伝統文化の理解及び修習並びに内外の諸宗教及び関連する宗教文化の分析と比較を通して、国際化され情報化された現代社会の発展に寄与し社会の健全な形成に貢献する人材を育成することを目的とする。

神道文化学部では、神道文化・宗教文化を学ぶことができます。日本の伝統文化の根幹として長い歴史を有する神道は、宗教であるとともに、ことさら「宗教」として意識されることの少ない生活規範や習俗・慣習でもあります。このような神道の二面性ないし両義性、さらには多様性を体系的に学ぶことが、学びの柱です。また、現在の世界において社会や政治などの大きな原動力となっている諸宗教の事情を多方面から検討し、宗教と各国におけるさまざまな文化との関わり方について広く学びます。

こうした学びを通じて、本学が建学の精神として掲げる「主体性を保持した寛容性と謙虚さの精神」を涵養します。現代社会に息づく日本の伝統文化を再認識しつつ、宗教への理解を深めることにより、価値観が混在する現代社会の諸課題に対応する力を身につけて、日本文化と異文化の「懸け橋」となり得る、創造力あふれる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

神道文化学部（神道文化学科）は、学生が学部の専門教育において到達すべき教育目標を以下のように定めます。

DP- A　知識・技能

（DP-A１）神道を中心とする日本の伝統文化と社会のあり方に関する基礎知識を身につけている。
（DP-A２）国内外の宗教文化に関する基礎知識を身につけている。
（DP-A３）神道文化や宗教文化および日本の伝統文化を社会の中で継承・展開するための知識・技能を身につけている。

DP- B　思考力・判断力・表現力

（DP-B１）神道・宗教に関わる古典や資料の理解にもとづく思考力や判断力を身につけている。
（DP-B２）フィールドワークや実技・実習などによって、現代社会の諸事象を考察し、判断する力を身につけている。
（DP-B３）神道文化・宗教文化について身につけた知識・技能を文章・言語で表現できる。

DP- C　主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

（DP-C１）神道を中心とする日本の伝統文化を自ら協働して学ぼうとすることができる。
（DP-C２）国内外の宗教文化について多角的な視点から議論し協調することができる。
（DP-C３）多様な人々と協力しながら課題解決に取り組むことができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学士課程の学位（文学）を授与します。

神道文化学部では、日本に根差した文化を学ぶ機会を設けています

「基幹演習（ゼミ）」

「基幹演習（ゼミ）」

神道文化学部の特色

実践的神職養成特別コース

昼間に神社で継続的に奉仕し、卒業後は神社の神職として社会貢献を果たすことを志望する学生を主対象とするコースです。このコースを受講する学生は、夜間授業時間帯に開講される必修科目、特別クラスの祭式授業（一部）および３・４年次の基幹演習（ゼミ）を履修します。

授業時間帯（渋谷キャンパス）

時限	時　間	月	火	水	木	金	土
1	8：50〜10：20						
2	10：30〜12：00						
3	12：50〜14：20						
4	14：30〜16：00						
5	16：10〜17：40						
6	17：50〜19：20						
7	19：30〜21：00						

昼間授業時間帯　夜間授業時間帯　共通授業時間帯

専門教育科目の必修科目〈専門基礎科目〉など、一部の科目は、原則平日１〜５限に開講されます。ただし、実践的神職養成特別コースの学生は、平日６・７限の開講科目を履修することになります。

神道と地域のかかわりを学ぶ科目

少子高齢化・地方の過疎化が進む中、神社の持つ地域の文化的拠点としての役割に注目が集まっています。神社と地域社会とのかかわりを深く学べる**「神道と社会貢献Ⅰ・Ⅱ」**や、神社等の文化財に関する専門的知識などが得られる**「宗教と文化財保護Ⅰ・Ⅱ」**などの科目が開講されます。

学問の関心にあわせて選べる 学科内コース（神道文化コース・宗教文化コース）

神道文化学部では「神道文化コース」と「宗教文化コース」の２つのコースを設けています。３年次にいずれかを選択することになります。選択後のコース変更はできませんが、どの授業でも履修できます。

神道文化コース

神道に関する諸分野を学び、神職になるための教養を身に付けるコースです。内外の宗教文化についても学ぶことで、幅広い知識を身につけ、現代の神道に関わる諸解題に対応できる人材になることを目指します。

宗教文化コース

内外の宗教文化を主として学び、研究するコースです。宗教文化の比較研究を通して、神道を中心とした日本文化の特色を捉え、日本の宗教文化を世界に発信できるような人材となることを目指します。

主体的・意欲的に学べる演習を柱の１つとしたカリキュラム編成

➡ カリキュラム・演習については、**「Ⅲ　カリキュラムと履修」**(p.21〜)を参照。

「宗教考古学Ⅰ・Ⅱ」

「神社祭祀演習」

教員紹介

教授

遠藤　潤　ENDO Jun

令和８年度担当科目　神道文化基礎演習　神道文化演習
神道思想史学Ⅰ・Ⅱ　宗教学Ⅰ・Ⅱ
宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

宗教学演習テーマ　「19世紀以降の宗教･宗教文化･宗教的現象を考える」

出身地
兵庫県生まれ、神奈川県育ち

専攻領域
宗教学　日本宗教史

最終学歴
東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程単位取得

学位
博士（宗教学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　日本思想史学会　明治聖徳記念学会

主な著書・論文
『平田国学と近世社会』（ぺりかん社、2008年）
「平田国学と幽冥思想―近世神道における死の主題化―」
（島薗進ほか編『日本人と宗教３　生と死』春秋社、2015年）
「平田篤胤『仙境異聞』の編成過程―〈語り〉と書物のあいだ―」
（『國學院雑誌』120-7、2019年）
「近代神道研究をめぐる諸相―柳田国男「神道私見」を視点として―」
（佐藤文子ほか編『日本宗教史６』吉川弘文館、2020年）
「平田篤胤の言説は社会的境界を越えたのか―藩･幕府･朝廷を焦点に―」
（久保田浩ほか編『越境する宗教史』上、リトン、2020年）

テキストを ていねいに読もう

私は、宗教現象が語られたり書かれたりすることに興味を持っています。そこから、ことばを大切に取り扱いたいと思うようになりました。

宗教学や神道学に限らず、人文学のどの学問でも一番の基礎となるのは、原典であれ論文であれ、文献を正確に理解しようと努める姿勢です。学生のみなさんは日々忙しく感じているかもしれませんが、学生生活を離れてみれば、学生時代はかなり時間の余裕がある時期だったことがわかります。せっかくのこの時期に、ものをていねいに読んで、じっくり考えて下さい。ゆっくりやってできないことは、急いでやってもなかなかうまくできないのではないでしょうか。あせることもあるでしょうが、むしろ「時間をかけられるのは今だけ」と覚悟を決めて下さい。（よい意味で）慣れてきたら、スピードも自然に上がってくることでしょう。

教授

加瀬 直弥　KASE Naoya

令和８年度担当科目　祭祀学Ⅰ・Ⅱ　祭祀学特殊講義
宗教行政研究Ⅱ　神道史学演習Ⅰ・Ⅱ
神道学演習Ⅰ・Ⅱ　祭祀学（専攻科）

神道史学演習テーマ　「神道と他宗教・外来宗教の関係」

出身地
神奈川県横浜市

専攻領域
古代・中世神道史

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　神道史学会　国史学会

主な著書・論文
『古代の神社と神職』（吉川弘文館、平成30年）
『平安時代の神社と神職』（吉川弘文館、平成27年）
『日本神道史〈増補新版〉』〈共著〉（吉川弘文館、令和３年）
『丹生都比売神社史』〈共著〉（同神社、平成21年）
『古代諸国神社神階制の研究』〈共著〉（岩田書院、平成14年）

体得を大事にする

小学生のころから日本の歴史に興味があった。やがて、古い時代を体得したいと思うようになり、各地をめぐるようになった。その際、神社は歴史を特に物語っているように見えた。最初は漠然とした関心だったが、大学在学中に神道の歴史を研究しようと考え、今に至る。幸い、関心がつとめに結び付いたが、その決め手は自身の信念や努力ではなく、心ある方々による有形無形の理解と支援だった。

人に示せる確たる信念を持ち、計画的な将来設計のもとで人生を歩むことは素晴らしいことだと思う。私にはできなかった。人生に無駄はないんだと思いながら体による経験だけで何とかなっている、というのが、今までを振り返った率直な感想である。

教授

黒﨑 浩行　KUROSAKI Hiroyuki

令和８年度担当科目　神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ※
神道教化システム論　宗教学演習Ⅰ・Ⅱ
※旧カリキュラム科目（令和７年度までの入学生対象）

宗教学演習テーマ　「現代社会の諸課題と宗教文化」

出身地
島根県松江市

専攻領域
宗教学　宗教と情報　現代神社と地域社会

最終学歴
大正大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得

学位
博士（宗教学）

所属学会
日本宗教学会　「宗教と社会」学会　神道宗教学会

主な著書・論文
『神道文化の現代的役割―地域再生・メディア・災害復興―』
（弘文堂、2019年）
「地域社会と神社・祭り―人口減少と地域再生の中で」
（堀江宗正責任編集『いま宗教に向きあう１　現代日本の宗教事情　国内編Ⅰ』岩波書店、2018年）
『震災復興と宗教』（共編著、明石書店、2013年）

つながりのなかで学ぼう

平成23年３月11日に発生した東日本大震災、令和６年１月１日に発生した能登半島地震をはじめとして、近年、大きな災害が頻発している。多くの人たちが救援・支援のために現場へかけつけ、そこで失われた命の鎮魂と、復興に向けたさまざまな支えあいのつながりが生まれている。宗教者・宗教団体や地域の宗教文化は、そこでどのような役割、働きをなしうるか、が課題として浮かび上がっている。

また、それはひるがえって日常の地域社会における宗教の関わり方にも再考を促すものとなっている。

研究者として、またときに学生を引率する者のひとりとしてこうした現場に関わりながら、ともに学んでいくことを大切にしていきたいと考えている。

教授

小林 宣彦　KOBAYASHI Norihiko

令和８年度担当科目　神道史学ⅠA・ⅠB　古典講読ⅡA・ⅡB
神道文化基礎演習　神社祭祀演習ⅢA
神道史学演習Ⅰ・Ⅱ
國學院の学び（日本文化と装束）

神道史学演習テーマ　「神社・祭祀・儀礼・神話・信仰などを考察する」

出身地
栃木県

専攻領域
古代神道史　神道古典　有職故実

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位
博士（宗教学）

所属学会
神道宗教学会　明治聖徳記念学会　古事記学会　神道史学会

主な著書・論文
『律令国家の祭祀と災異』〈単著〉（吉川弘文館、平成31年）
「日本古代における死霊の特徴について―神霊と陵霊との比較検討から―」〈単著〉（『國學院雑誌』第125巻第９号、令和６年）
『日本神道史（増補新版）』〈共編著〉（吉川弘文館、令和３年）
事典『古代の祭祀と年中行事』〈共著〉（吉川弘文館、平成31年）
國學院大學貴重書影印叢書　第４巻『日本書紀　古語拾遺　神祇典籍集』〈共著〉（朝倉書店、平成28年）

慎みて怠ることなかれ

神社の長男として生まれ、大学生の時に神職講習会で正階を取得し、卒業後、神道学専攻科に進学して明階を取得しました。その後、大学院に進学し、本格的に神道について研究しました。大学院修了後は、兼任講師として研究にも携わっていましたが、実家に戻り神職として奉仕することで、神道の理論と実践を兼ね備えることができました。「神道とは何か」･「神社の社会的役割とは何か」･「神職のあるべき姿とは何か」これらの命題を考え続けることが、自身の研究にも大きな影響を与えました。

学生の皆さんには、在学中に学びの楽しさと苦しさを経験してもらいたいと思います。その経験が、きっと皆さんの人生の糧になるでしょう。

教授

笹生　衛　SASOU Mamoru

令和８年度担当科目　宗教考古学Ⅰ・Ⅱ　神道史学演習Ⅰ・Ⅱ
神道史学演習テーマ　「考古学資料から考える神・霊魂と儀礼・祭祀」

出身地
千葉県

専攻領域
日本考古学　日本宗教史

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程前期修了

学位
博士（宗教学）

所属学会
日本考古学協会　祭祀考古学会　神道宗教学会

主な著書・論文
『まつりと神々の古代』〈単著〉（吉川弘文館、令和５年）
『神と死者の考古学』〈単著〉（吉川弘文館、平成28年）
『日本古代の祭祀考古学』〈単著〉（吉川弘文館、平成24年）
『事典　神社の歴史と祭り』〈共編〉（吉川弘文館、平成25年）
『亀卜』〈共著〉（臨川書店、平成18年）
『神仏と村景観の考古学』〈単著〉（弘文堂、平成17年）
『平安時代の神社と祭祀』〈共著〉（国書刊行会、昭和61年）

元気に楽しく！

昭和36年、千葉県生まれ、代々続く農家で育ちました。國學院大學文学部神道学科から大学院へ。その後、千葉県教育庁に就職。埋蔵文化財の発掘調査と保護行政、青少年教育や県立博物館の学芸員、指定文化財の保護行政も担当し現在に至っています。

私は、古代・中世の宗教・信仰を考古学の視点から分析し、その実態を明らかにしようという研究をおこなっており、遺跡・遺物の考古資料から神仏への信仰を、かつての環境・景観の中で具体的に復元することを目指しています。それは、日本文化を考える上で不可欠な要素であり、新たな日本宗教史、神道史を描くことにもつながると信じています。日本文化や神道の歴史を、新たな視点から一緒に考えていきましょう。

教授

武田 秀章　TAKEDA Hideaki

令和８年度担当科目　神道史学演習Ⅰ・Ⅱ　神道史学ⅡＡ・ⅡＢ
古典講読ⅠＡ・ⅠＢ　神道史（専攻科）
神道史学演習テーマ　「『古事記』を読み直す、神道･国学の歴史を見直す」

出身地
神奈川県鎌倉市

専攻領域
近世・近代神道史　国学史　神道古典

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　明治聖徳記念学会

主な著書・論文
『日本型政教関係の誕生』（共著、第一書房、昭和62年）
『維新期天皇祭祀の研究』（大明堂、平成８年）
『霊魂・慰霊・顕彰―死者への記憶装置―』（共著、錦正社、平成22年）
『モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践』（共著、國學院大學、平成24年）
『近代の神道と社会』（共著、弘文堂、令和２年）

内なる芽を豊かに結実させてゆきましょう

鶴岡八幡宮のお膝元・鎌倉で生まれました。國學院で神道を学んだのち、神社新報社に就職し、ついで神社本庁に転出しました。本学に移ったのは、平成八年のことです。このように、神社・神道づくめの人生なので、ものごころついて以来、「神様とは何か」「祭りとは何か」「神道とは何か」という問いを考え続けてきました。

神道は、「天地初発」（『古事記』）以来、連綿と蓄積されてきた日本人の生命記憶の総体です。神道を学ぶということは、この無限の生命記憶から、生きる力を汲み上げてゆくということにほかなりません。かけがえのない「内なる芽」を、生涯かけて大切に育み、豊かに結実させてゆきましょう。健闘を祈ります。

教授

菅　浩二　SUGA Koji

令和８年度担当科目　神道概論Ⅰ・Ⅱ　神道と環境Ⅱ
神道と国際交流Ⅰ　神道学演習Ⅰ・Ⅱ
英語Ⅲ・Ⅳ　日本文化を知る（文化芸術振興論）
神道学演習テーマ　「近現代社会における神道・宗教の位置」

出身地
兵庫県

専攻領域
宗教とナショナリズム論　近代神道史　歴史社会学

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位
博士（宗教学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　「宗教と社会」学会　明治聖徳記念学会　他

主な著書・論文
『日本統治下の海外神社』（弘文堂、平成16年）
「冥王星と宇宙葬」（『共存学３』弘文堂、平成27年）
「沖縄・伊平屋列島の天神降臨伝承と藤貞幹『衝口発』」
（『國學院雑誌』124（5）, 2023）
「W・P・ウッダードのKokutai Cult論に関する考察」
（『宗教研究』97（2）, 2023）
「靖國神社と福祉国家」（『国家神道と国体論』弘文堂、令和元年）
「巨大ロボットと宗教」（『巨大ロボットの社会学』法律文化社、令和元年）
The Covid Pandemic and the World's Religions. (Bloomsbury, 2023)（共著）

神社へのお参りは、自分と世界を結ぶ道の第一歩

人間と社会の姿が〈宗教〉に結ぶ像を通して、この時代と未来を考えましょう。そのためには歴史や言葉の勉強も、世界を知ることも重要です。何も努力せずには、何も身につきません（↑自分向けにも言っています…）。

先人たちが、長い時間をかけて神々との関係を形にした「神道」は、現代の私たちにとっても大切な知恵の表われです。身近な神社へのお参りを、自分と世界のあいだを結ぶ道の第一歩を踏み出すこと、と考えてみて下さい。その道の向こうには、家族、仲間、地域、民族、くに、人類、環境…と、色々な共同性が見えています。

人の生活において、共同の意識を形作るものは何でしょうか。過去と現在がつながっているという思いは、なぜどこから生じるのでしょうか。いろんな関心を持って一緒に学びましょう。研究者として、また一人の神道人として、私も学び続けます。

教授

西岡 和彦　NISHIOKA Kazuhiko

令和８年度担当科目　神道概論Ⅰ・Ⅱ　神道神学Ⅰ・Ⅱ
神道思想史学Ⅰ・Ⅱ　神道学演習Ⅰ・Ⅱ
神道概論（専攻科）　神道神学（専攻科）
神道学演習テーマ　「出雲大社を多角的に概観する」

出身地
兵庫県

専攻領域
神道思想史学　神道神学

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　神道史学会　日本思想史学会　日本宗教学会　藝林會 ほか

主な著書・論文
『直毘霊を読む』（右文書院、平成13年、共著）
『近世出雲大社の基礎的研究』（大明堂、平成14年、単著）
『大社町史　中巻・年表』（出雲市、平成20年、共著）
『出雲大社の寛文造営について―大社御造営日記の研究―』
（島根県古代文化センター、平成25年、共著）
『建国の使命―「大祓詞」の神学―』（伊勢神宮崇敬会、平成29年、単著）
『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究』（明徳出版社、令和３年、共著）
『増補版　神道の格言「かぎろい」抄（六）』
（大神神社三輪山叢書、令和６年、単著）　ほか

新入生のみなさんへ

神道を学ぶ者はきわめて少ない。みなさんは貴重な存在である。だからこそ、自身の生き方を大切にして欲しい。神道学は日本の神さまを調べるだけで無く、神習うことを必要とする。神さまの慈愛を受け止める感性を身につけ、それに感謝し、敬愛を以て各自の大切な使命を遂行するのが、いわゆる神道人である。

神道人とはなんと誇らしき響きであろう。だが、その誇りを確証しなければ、単なる空威張りになってしまう。そこで神道を学ぶのだが、自力でその確証が摑めるまでには、どうしても指導が必要である。それに応じるのが、本学部の使命であるから、みなさんも積極的に疑問を投げかけて欲しい。そして、一緒に考えよう。

教授

平藤 喜久子 HIRAFUJI Kikuko

令和８年度担当科目 比較文化学Ⅱ　宗教芸術研究Ⅱ
神道文化基礎演習　神道文化演習
日本文化を知る（日本文化論と日本神話）

出身地
山形県

専攻領域
神話学　宗教学

最終学歴
学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程修了

学位
博士（日本語日本文学）

所属学会
日本宗教学会　「宗教と社会」学会　International Association for Comparative Mythology　神道宗教学会　ほか

主な著書・論文
『人間にとって神話とは何か』（NHK出版、令和７年）
『〈聖なるもの〉を撮る』（共編著、山川出版社、令和５年）
『神話の歩き方』（集英社、令和４年）
『現代社会を宗教文化で読み解く』（共編著、ミネルヴァ書房、令和４年）
『神話でたどる日本の神々』（筑摩書房、令和３年）
『ファシズムと聖なるもの/古代的なるもの』
（編著、北海道大学出版会、令和２年）
『世界の神様 解剖図鑑』（エクスナレッジ、令和２年）
『いきもので読む、日本の神話』（東洋館出版、令和元年）

書を持って旅に出よう！

わたしの専門は、「神話学」です。人が人としての心を持つようになったときには存在していたとされる神話について、さまざまな角度から考え、理解しようとする学問です。基本的には文献と向き合うことが多いのですが、実は、なにより大事にしているのは神話の舞台とされているところ、古くから聖地とされているところに旅すること。古代から人々が神聖だとしてきた場所、特別だと思ってきた地に立ったとき、神話の背景が理解できたような気になることもあります。このような旅の魅力にとりつかれたのは、大学一年生のときに出雲を訪れたのがきっかけです。学生時代には、時間を大いに無駄遣いし、状況の許す限り、知恵を絞って、身近なところからでも神々を感じる旅をして欲しいと思います。その体験を語り合うことを楽しみにしています。

教授

藤本 頼生 FUJIMOTO Yorio

令和８年度担当科目 神道史学ⅡA・ⅡB　神社管理研究Ⅰ・Ⅱ
神道学演習Ⅰ・Ⅱ　宗教行政概論（専攻科）

神道学演習テーマ 「近代から現代までの社会と神社・神道文化を考える」

出身地
岡山県

専攻領域
神道教化論　近代神道史　神道と福祉　都市社会と神社

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　「宗教と社会」学会　日本都市社会学会
宗教法学会　社会事業史学会　岡山地方史研究会　神道史学会
明治聖徳記念学会　社叢学会

主な著書・論文
『神道と社会事業の近代史』（単著・弘文堂、平成21年）
『神社と神様がよ～くわかる本』（単著・秀和システム、平成26年）
『地域社会をつくる宗教』（編著・明石書店、平成24年）
『よくわかる皇室制度』（単著・神社新報社、平成29年）
『鳥居大図鑑』（編著・グラフィック社、平成31年）
『明治維新と天皇・神社』（単著・錦正社、令和２年）
『東京大神宮ものがたり』（単著・錦正社、令和３年）
『現代「神道」講座』（単著・佼成出版社、令和６年）
『根津神社　重要文化財・奉納刀剣・宝物集』（監修・有栖川出版、令和６年）

神道のもつ多様性や
多面的な価値を探そう

私は、地域に所在する神社と人々との関係や、社会貢献活動に関心を持ちながら、神道の宗教的・社会的な役割は何かという点について研究を進めてきました。なかでも近代以降の神社や神職にかかる法令や制度を中心に、神職の社会活動や神社の管理・運営、政治や行政との関係性についても研究を進めることで、近代、現代における神社神道の姿を明らかにしようと試みています。

グローバル化の波の中で、さまざまな価値観や考え方が混淆する現代の日本社会にあっては、今後ますます、様々な多様性を包含する聖なる箱のような存在である神道の理念やあり方が注目されるものと思われます。

全国津々浦々で行われている神祭りの姿や、それを形作る組織とネットワークの奥底にある人々の文化と信仰のありようを窺いながら、神社・神道のもつ多面的な価値を一緒に探してみましょう。

教授

松本 久史 MATSUMOTO Hisashi

令和８年度担当科目 古典講読ⅠA・ⅠB・ⅢA　国学概論Ⅰ・Ⅱ
神道学演習Ⅰ・Ⅱ　神道古典（専攻科）

神道学演習テーマ 「神社はどのように語られるようになったのか
―由緒記・縁起の形成と学問―」

出身地
栃木県宇都宮市

専攻領域
国学史　神道史

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　明治聖徳記念学会　他

主な著書・論文
『荷田春満の国学と神道史』（弘文堂、平成17年）
新編荷田春満全集編集委員会編『新編荷田春満全集』第１・３・12巻
（校注）（おうふう、平成16・17・22年）
『神話のおへそ　『古語拾遺』編』（執筆）（扶桑社、平成27年）
「前期国学の古事記研究」（『古事記學』第１号、平成27年３月）
『歴史で読む国学』（共著）（ぺりかん社、令和４年）

神道と日本を知る。
そして、己を知る。

平成14年に本学の日本文化研究所助手を拝命し、21年度まで日本文化研究所・研究開発推進センターに所属し、22年度からは学部教員。近世の国学を中心とした神道・国学史を研究テーマにしています。神道を学ぶためには、古典をはじめとした幅広い知識が必要になります。特に１、２年生の間には、様々なことに関心を持ち、しっかりとした基礎教養を身につけてください。そのためのサポートをしっかりとしたいと思っています。その上で、３、４年生の時に、オンリーワンの得意分野を作ってください。世の中がどう変動しようとも、流されず、しっかりとした自分の根拠を持てるよう、勉強は勿論のこと、部活やサークル活動、神社奉仕等の社会活動にも励んでほしいと思います。

准教授

大道 晴香 OMICHI Haruka

令和８年度担当科目 宗教学演習Ⅰ・Ⅱ　宗教社会学Ⅰ・Ⅱ
神道と文化　神道文化演習
神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ※　神社ネットワーク論Ⅰ※
日本文化を知る（現代日本社会の「宗教」）
日本文化を知る（儀礼文化研究）
※旧カリキュラム科目（令和７年度までの入学生対象）

宗教学演習テーマ 「〈聖なるもの〉とメディア」

出身地
青森県八戸市

専攻領域
宗教学　メディア論

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科博士課程後期神道学・宗教学専攻修了

学位
博士（宗教学）

所属学会
日本宗教学会　日本民俗学会　日本山岳修験学会　神道宗教学会
印度学宗教学会　日本出版学会　「宗教と社会」学会

主な著書・論文
『怪異と遊ぶ』（一柳廣孝・大道晴香編、青弓社、2022年）
「メディアのまなざしを拒む場所―視覚情報の欠如から「聖地」と「カメラ」の関係を考える」（藤野洋平ほか編『モノとメディアの人類学』ナカニシヤ出版、2021年）
「パワースポットのメンタリティー欲望と禁欲のはざまで」
（山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』弘文堂、2020年）
『「イタコ」の誕生－マスメディアと宗教文化』（弘文堂、2017年）

あなたの周りにある、
まだ見ぬ世界を見つけよう

私は近現代の社会のあり方と宗教現象との関わり、特にメディアと宗教との関係に関心を抱いています。これまで新聞、大衆雑誌、マンガ、小説、映画、ライトノベルなどを対象に、宗教的なものがいかに描かれてきたのか、そして、メディアの中のイメージが、現実社会にいかなる影響を与えるのかについて考えてきました。

こんなに身近な対象が、宗教を知るうえで役立つの？と疑問に思った方もいるかもしれません。しかし、日頃意識しない、何気無い日常生活の一部だからこそ、そこには生き生きとした文化の姿が見てとれるのではないでしょうか。大学での学びを通じて、身近にありながらもまだ見えていない、新たな世界を発見してほしいと思います。

准教授

柏木 亨介 KASHIWAGI Kyosuke

令和８年度担当科目 神道文化基礎演習　神道文化演習
宗教学演習Ⅰ・Ⅱ　神道と文化
宗教人類学Ⅰ・Ⅱ　日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ
神道と環境Ⅰ　日本文化を知る(民俗宗教論)

宗教学演習テーマ 「民俗誌を読む」

出身地
東京都八王子市

専攻領域
民俗学　文化人類学

最終学歴
筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻修了

学位
博士(文学)

所属学会
日本民俗学会　日本文化人類学会　神道宗教学会　ほか

主な著書・論文
『阿蘇神社の夜明け前―神々とともに生きる社会のエスノグラフィー―』(藤原書店、2025年)
「フィールドで一緒に考えていること―阿蘇地域での時間の共有―」(『日本民俗学』321、2025年)
「真宗門徒の死者供養にみる民俗的心意―愛媛県今治市大三島町野々江のイハイを背負う盆踊り―」(『國學院雑誌』123-9、2022年)

驚きと発見を求めよう！

私の生まれは東京郊外。お盆になると同級生がイナカというところに行ってしまう現象を不思議に思っていたところ、たまたま読んだ玉勝間巻八「ゐなかに古へのわざののこれる事」に感化され民俗学を志し、大学生活を熊本で過ごしました。それから筑波山の麓で学位を得て、加藤清正公ゆかりの蔚山に渡韓、帰国後は上州草津の湯で心身を癒しながら研究生活を送りました。各地に遊学することおよそ四半世紀、人々の暮らしぶりを見つめながら社会規範と儀礼との関係を研究してきましたが、いずれの土地にも歴史があり個性的な文化と出会えます。驚きと発見は学問の醍醐味。この時代、この世の中を、みなさんの目で徹底的に見つめましょう。そして、書物を通して先人と語り合い、そこから驚きと発見と希望が得られることを期待しております。

准教授

小濱　歩 KOHAMA Ayumu

令和８年度担当科目 派遣研究のため授業担当なし

出身地
広島県

専攻領域
神道古典

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

学位
博士(神道学)

所属学会
神道宗教学会　古事記学会　日本宗教学会　他

主な著書・論文
「『古事記』大宜津比売伝承の特色―海外神話及び『紀』所伝との対照において―」(『神道宗教』第230号、2013)
「『古事記』須佐之男命像の特色　―ウケヒ伝承を手がかりとして―」(『國學院大學紀要』第48号、2010)
「『古事記』神代における大物主神像についての一考察」(『國學院大學大学院紀要―文学研究科―』第40輯、2009)
「大物主神の神名と神格の関わりについて」(『神道宗教』第207号、2007)

学生の皆さんへ

私は社家の出身ではありませんが、幼い頃に出会った『古事記』の物語に惹かれて、大学の卒業論文で“何となく”伊邪那岐命の黄泉国訪問説話を取り上げました。大学院でも『古事記』の研究を続けて、思いもよらずこの不思議な古典と長く付き合うことになりました。大学教員になって十年あまり異なる分野の学問・業務に携わりましたが、神道文化学部に移り、改めて『古事記』をはじめ上代の神話を、新たな気持ちでゆっくり読み直してみたいと思っています。皆さんも、ぜひ、面白そうだと思うことを探して取り組んでみてください。それが意外と人生に大きな糧を、あるいは彩りをもたらしてくれるかもしれません。大学生活は楽しい半面、忙しいことも多く、悩む時期もあるかと思います。勉強だけでなく、よく食べ、よく眠り、よく笑ってください。

准教授

加藤 久子 KATO Hisako

令和８年度担当科目 宗教学Ⅰ・Ⅱ　宗教学演習Ⅰ・Ⅱ
神道文化基礎演習　神道文化演習
宗教学概論(専攻科)　宗教概説(別科)

神道学演習テーマ 「私たちが生きているのはどのような社会か」

出身地
広島県竹原市

専攻領域
宗教社会学　宗教史　宗教文化論

最終学歴
一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士課程単位取得

学位
修士(社会学)

所属学会
日本宗教学会　日本社会学会　「宗教と社会」学会　他

主な著書・論文
「社会主義政権下での宗教実践―スターリン期ポーランドの新興工業都市の暮らし」(中野智世・前田更子・渡邊千秋・尾崎修治編『近代ヨーロッパとキリスト教―カトリシズムの社会史』勁草書房、2016年)
「共存の歴史として描かれたもの―ポーランドのユダヤ人の歴史博物館」(國學院大學研究開発推進センター編『共存学４』弘文堂、2017年)
「冷戦下での西ドイツ・ポーランドの和解に宗教はどう関与したのか」(共著、伊達聖伸編『ヨーロッパの宗教と世俗』勁草書房、2020年)
「公共宗教の光と影―ポーランドにおけるカトリック教会と公教育」(櫻井義秀編『アジアの公共宗教―ポスト社会主義国家の政教関係』北海道大学出版会、2020年)

古いことにも
新しいことにも
目を向けよう！

私は、近現代におきた／おきている政治や社会の変化に関心を持っています。特に、戦後の高度経済成長期に地方から都市に移住してきた人々の間で、新しい生活様式や価値観(消費社会の到来、仕事観や家族観の変容など)と、旧来の価値観や習慣、信仰心などがいかにせめぎあい、融合・調和したか、グローバル化する世界の中で宗教や宗教間の関係はどのように変化してきたか、などについて考えています。

変わるもの、変わらないものに気付くためには、同時代のさまざまな事象をよく観察することも大切ですが、歴史を知り、そのルーツをたどることもとても大切です。本で学ぶ歴史はもちろんですが、ご家族、アルバイト先や実習先で出会った方、近所の商店街の店主さんなど、身近な人が生きてこられた歴史(ライフヒストリー)に耳を傾ける機会もぜひ持ってください。

准教授

シッケタンツ エリック Erik SCHICKETANZ

令和８年度担当科目 世界宗教文化論Ⅰ・Ⅱ　東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ
Japan Studies　英語Ⅲ・Ⅳ　宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

宗教学演習テーマ 「宗教と近代化」

出身地
ドイツアーヘン市

専攻領域
宗教学、近代日本宗教史、近代中国宗教史

最終学歴
東京大学大学院人文社会系研究科宗教学宗教史学専攻博士課程修了

学位
博士(宗教学)

所属学会
日本宗教学会　日本近代仏教史研究会　American Academy of Religion, Association of Asian Studies, International Association of Buddhist Studies

主な著書・論文
『堕落と復興の近代中国仏教：日本仏教との邂逅とその歴史像の構築』(京都：法蔵館、2016)
“Narratives of Buddhist Decline and the Concept of the Buddhist Sect (zong) in Modern Chinese Buddhist Thought,” in *Studies in Chinese Religion* 3:3, pp. 281-300, 2017
「近代中国仏教における宗派概念とそのポリティクス」(末木文美士・林淳・吉永伸一・大谷栄一(編)『ブッダの変貌―交錯する近代仏教』、87-108頁〈京都：法蔵館、2014年〉)
“Wang Hongyuan and the Import of Japanese Esoteric Buddhism to China during the Republican Period,” in Tansen Sen (ed.) *Networks of Material, Intellectual and Cultural Exchange vol. 1*, Singapore: Institute of Southeast Asian Studies, 2014, pp. 403-427.
「現代中国における清明節の復活―共産党政権の文化政策における祖先崇拝の位置づけについての考察」(『死生学研究』13号、183-216頁、2013年)

学生のみなさんへ

私はドイツ西部にあるアーヘンという町で育ちました。アーヘンはオランダとベルギーとの国境沿いにあり、行こうと思えばすぐでも異なる言語や文化を味わうことができる距離でした。大学生の時は、日本語と中国語を勉強し、アジアの諸文化に幅広い関心を持って受講した多くの授業の中で、とくに宗教に関する科目に興味を持ちました。ロンドン大学を経て東京大学の宗教学研究室に入学したのも、アジアにおける宗教と政治の関係を勉強したかったからです。近代における政治と宗教の領域は複雑な形で絡み合い、国境を越えた問題も抱えています。私は、近代の日中関係に興味がありますし、日中の宗教交流が他領域に与えた影響を現在の研究テーマにしています。でも、大学は学問だけではなく、たくさんのことを経験する機会でもあります。学生のみなさんにはいろんな方向に視野を広げて、社会のしくみをよりよく理解する機会にしてほしいと思っています。

准教授

鈴木 聡子 SUZUKI Satoko

令和８年度担当科目 神道史学演習Ⅰ・Ⅱ　神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ
古典講読ⅢＢ　神道文化基礎演習
神社祭祀演習Ⅰ　神社祭祀演習ⅢＡ
神社祭式同行事作法Ⅰ（別科）

神道史学演習テーマ 「神社の祭り（祭祀）を通して本質を探る」

出身地
千葉県市川市

専攻領域
古代・中世神道史、祭祀学

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程修了

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　「宗教と社会」学会

主な著書・論文
「神社年中行事形成の淵源」（『國學院雑誌』第123巻第12号、令和４年）
「神社年中行事の形成背景―節日神事を中心に―」
（『國學院雑誌』第122巻第10号、令和３年）
「神社年中行事の形成と意義―賀茂別雷神社と春日社を事例に―」
（『神道宗教』263号、令和３年）
「国家節会から神社年中行事へ―五月五日行事を事例として―」
（『神道宗教』第246号、平成29年）
『房総の伊勢信仰』（共著・雄山閣、平成25年）

学友とともに充実した学生生活を過ごそう

千葉県市川市で代々神職を務めてきた家に、次女として生まれました。幼い頃から神社の杜が遊び場で、身近な存在だったこともあり、自然とより深く神道を学びたいと思うようになりました。そして、國學院大學の文学部神道学科、さらに大学院へと進学しました。

４年間の学部での生活で、特に印象深い思い出は、同じ志を持つ仲間と全国の神社を参拝し、その歴史や文化に触れることで生じた興味や疑問などを、共に調べ、語り合ったことです。また、調べていく過程で先生とも密に話し合い、助言をもらいながら学びを深めていきました。

このような、何物にも代え難い貴重な経験こそが、私の研究の出発点となりました。

皆さんも素晴らしい環境の整った本学で、学友と互いに切磋琢磨して様々な事を学んで下さい。

准教授

星野 光樹 HOSHINO Mitsushige

令和８年度担当科目 神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ　祝詞作文Ⅰ・Ⅱ
神社祭祀演習Ⅱ・ⅢＢ　神社祭式特論
祭祀演習Ⅰ・Ⅱ（専攻科）

出身地
茨城県水戸市

専攻領域
祭式

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

学位
博士（神道学）

所属学会
神道宗教学会

主な著書・論文
『近代祭式と六人部是香』（弘文堂、平成24年）
『近代の神道と社会』〈共著〉（弘文堂、令和２年）

神職としての矜持が持てる未来をめざして

私はいわゆる社家ではありませんが、神職が奉仕する祭祀の実践規範ともいうべき祭式を教えています。

皆さんには、わが国の歴史と祭祀の意義を深く学び、大きな使命感と信念を培い、仲間と切磋琢磨し、謙虚な精神と慎ましい行動を身につけてもらいたいと切に願っております。

准教授

山口 祐樹 YAMAGUCHI Yuuki

令和８年度担当科目 神社祭祀演習Ⅰ・Ⅱ・ⅢＡ・ⅢＢ
神道文化基礎演習　神道文化演習

出身地
宮城県仙台市

専攻領域
神道祭祀学　古代神道史　神社祭式

最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

所属学会
神道宗教学会　神道史学会　禮典研究会

主な著書・論文
「中世移行期神宮祭祀の基礎的研究　『皇太神宮年中行事』にみえる祭儀次第の検討―正宮への参入・退出経路を中心に―
（『國學院雑誌』126巻２号 令和７年２月）
「古代伊勢神宮における祭祀所役について―禰宜職の増員と所役の変化―」
（『國學院雑誌』第123巻12号、令和４年）
「古代伊勢神宮における斎戒と神職」（『神道宗教』第258号、令和２年）
「古代伊勢神宮祭祀と大神宮司」（『國學院雑誌』第119巻９号、平成30年）
『事典　古代の祭祀と年中行事』〈共著〉（吉川弘文館、平成31年）
「古代伊勢神宮における「御鎰」の取扱いについて」
（『神道研究集録』第32輯、平成30年）
『國學院大學貴重書影印叢書　第四巻　日本書紀・古語拾遺・神祇典籍集』
〈共著〉（朝倉書店、平成28年）

確かな知識と奉仕の“こころ”を育もう

宮城県仙台市に生まれ、國學院大學文学部神道学科で神道を学び神職資格を取得しました。大学院修了後は伊勢の神宮に奉職、その後宮内庁掌典職などでの奉仕を経て、現在は都内の神社にて禰宜として奉仕しながら母校の教壇に立っております。神宮や掌典職では、神宮式年遷宮をはじめ宮中三殿の御遷座、そして大嘗祭と度々重儀に御奉仕する機会を頂戴しました。そこでの御奉仕は、いかに「先神事」の精神を実践できるかが問われた場でもあり、私の神職としての“心”の部分を成長させて頂きました。

学生の皆さんには、この４年間の間に幅広い視野をもって、学び、遊び、神職として必要な教養を深めると同時に、いつ神明奉仕の場に立つこととなっても臆することのないよう確かな知識と奉仕の“心”を養って頂きたいと思います。

神道文化学部の行事

観月祭

供物を献じて十五夜の満月を鑑賞する「中秋観月」に由来する行事で、神道文化学部生が中心となって例年10月に行われています。

観月祭では、秋の作物が供えられ、雅楽や舞などが奉納されます。

成人加冠式

奈良・平安時代の貴族社会の成人儀礼に由来します。色鮮やかな装束に身を包むこの行事は、神道文化学部のみならず、他学部の学生やそのご家族の関心も集めています。

成人加冠式では、祭式教室にて加冠之儀(男子は加冠・女子は釵子(さいし)を着装)が執り行われます。

フィールドワーク

近年、地域づくりの担い手を育て、環境保全や災害対応の拠点となりうる神社、鎮守の杜の役割が注目されています。神道文化学部では、自然と共生する森づくりの現場でフィールドワークを実施しています。

奨学金制度

國學院大學の奨学金制度には、経済的な理由により修学が困難な学生や、成績が優秀な学生を対象とする奨学金のほかに、神道文化学部生を主な対象とした神職子女奨学金やフレックス特別給付奨学金などがあります。

＊奨学金制度は社会状況の変化を踏まえて変更することがあります。

神職子女奨学金

対　象　神道・宗教特別選考で入学した者

支給額　［１年生］自宅外通学者　400,000円　／　自宅通学者　200,000円
［２年生以上］自宅外・自宅通学者ともに年額100,000円支給（但しGPA2.0以上、20名上限）

フレックス特別給付奨学金（令和８年度に入学した学生のうち３年次編入学生のみ）

対　象　次の要件を満たす者
①共通・夜間授業時間帯（月～金曜日５～７限および土曜日１～７限）の科目のみで授業を履修するフレックスＡコースの在学生（年度ごとに申請が必要）
②学業成績が良好でありながら経済的に困窮している者
③「高等教育の修学支援新制度」との併給可

支給額　200,000円

神社界からの奨学金

卒業後神職になろうとする学生、または神道に関する研究に従事しようとする学生への支援のため、神社界から支給される奨学金です。

神社本庁育英奨学金

対　象　学部２年生以上、または神道学専攻科在学生で、卒業後に神社本庁包括下の神社で神職を志す者、または神道に関する研究に従事しようとする者。

支給額　300,000円

稲荷奨学金（伏見稲荷大社）

対　象　神道文化学科、神道学専攻科に在学し、卒業後神職又は神社並びに稲荷信仰の普及に関する業務に従事する者。

支給額　240,000円（月額20,000円）

全国敬神婦人連合会育英奨学金

対　象　神職の子女、若しくは「全国敬神婦人連合会」の会員の子女で、卒業後神職となる者、または神道に関する研究に従事しようとする学部２年生以上の者。

支給額　150,000円

出願方法・選考基準などの詳細については、大学ウェブページでご覧ください。
https://www.kokugakuin.ac.jp/student/scholarship

学部神社実習生制度

神道文化学部には、夜間の時間帯で授業を履修する学生（主に男子学生）を対象に、東京都内の神社に起居し、昼間は神社での奉仕を通じて神職になるために必要な実務を積み、精神を養う学部神社実習生制度があります。

実習生は、住居費および食費が不要となるほか、実習神社から別科授業料相当額が支給されます。

毎年、多くの学生が応募し、実習生として採用されています。

実習神社
（令和７年度）

- 浅草神社
- 亀戸天神社
- 浅間神社
- 御田八幡神社
- 穴守稲荷神社
- 神田神社
- 東京大神宮
- 靖國神社
- 大國魂神社
- 金王八幡宮
- 東郷神社
- 代々木八幡宮
- 大宮八幡宮
- 松陰神社
- 日枝神社
- 六郷神社

学部神社実習生制度の詳細については、神道研修事務課までお問い合わせください。
神道研修事務課　TEL 03-5466-0155

神社実習生のメッセージ

藤岡 宗孝さん
４年生

私の家は神社ではありません。しかし代々伊勢の神宮で奉仕してきた家系であります。そのため身近に幼い頃から神社に触れてきました。前回の第62回神宮式年遷宮で私は小学生でしたが御白石持行事に参加し、御垣内の中まで御白石を運びました。このような貴重な経験ができることは人生の中でも数えるほどしかありません。こういった貴重な体験をたくさんしたいと思いました。そこで國學院大學の神道文化学部で神道に関する教養を学び、神社実習生という制度を利用し、神社での実用的なことを身に付け、今後に生かしていきたいと考えました。

神社実習生というものは日中に神社で奉仕をし、夕方から大学へ通う生活が基本になってきます。最初は慣れないこともあり大変に感じることありました。しかしそれ以上に得られるものの方が多いと私は感じます。私の実習先の神社である靖國神社は東京五社のうちのひとつで都内でも大きな神社です。早朝に境内の掃き掃除をすることから始まり、紙垂（しで）などの切物や神前にお供えする神饌の作成、社頭に立ってお守りやご朱印の頒布、祭員として祭典奉仕することもあります。社頭は参拝者と接することが多いので、多くの方々と触れ合う機会を通じて様々な経験をさせていただいています。先輩神職の方々と一緒に仕事をするので、祭典の向き合い方、神職にとって必要な姿勢や態度、言葉などの立ち振る舞いも学ぶことができます。私の中では他の学生よりも少し早く社会に出て仕事をしているという感覚なので、社会生活の経験を多く積めることも神社実習生の良い点だと考えています。

大学在学中に神社実習生として学んだことは、どの神社に行っても必ず必要不可欠なものです。地域とのかかわりが深いところは氏子崇敬者の方々と意見を交わしながら、地域と神社を親密なものにする必要もあります。こうしたことは現場を知らないとできないことでもあります。実習中は神社職員の一員として見られているということを常に念頭に置いて行動しなければなりません。大学に行きながら実習生をすることはとても大変だと思いますが、学べることはたくさんあります。しかしこの全てが自分自身を大きく成長させてくれる糧になると私は考えています。この神社実習生という立場でしか得られない経験や学びを得るためにも、この立場を大いに利用して神社への理解を深めるために精進していただきたいと思います。

Ⅱ　奉職・就職

神社関係の奉職について

全国には80,000を超える神社があります。毎年、北海道から沖縄にいたるまで、200社以上の全国著名神社から求人申込みがあります。特に本学出身の方が奉仕している神社からは、ぜひ後輩を受け入れたいとの強い要望が寄せられます。

神職をはじめ神社に関わる職員は「労働者」ではなく、神々への「奉仕者」であるため、誠実な神社奉仕に努めて生活することが求められます。確固たる信仰心、奉仕の精神を持って、神社界に進まれることをお勧めします。

神社関係 奉職行事予定

3年次	1月中旬	奉職説明会
	2月上旬～中旬	奉職個人面談（奉職希望調査票提出）
4年次	4月～2月	求人票閲覧開始・推薦

令和７年度卒業生　主な奉職神社一覧

櫛引八幡宮（青森県）　香取神宮（千葉県）　検見川神社（千葉県）　高麗神社（埼玉県）　久伊豆神社（埼玉県）　大國魂神社（東京都）
亀戸天神社（東京都）　神田神社（東京都）　水天宮（東京都）　日枝神社（東京都）　明治神宮（東京都）　江島神社（神奈川県）
寒川神社（神奈川県）　伊豆山神社（静岡県）　三嶋大社（静岡県）　賀茂御祖神社（京都府）　伏見稲荷大社（京都府）　住吉大社（大阪府）
談山神社（奈良県）　阿智神社（岡山県）　太宰府天満宮（福岡県）　神社本庁（東京都）　埼玉県神社庁（埼玉県）
神奈川県神社庁（神奈川県）　神社新報社（東京都）

神道研修事務課からのお知らせ

神道研修事務課について

國學院大學は、母体であった皇典講究所の創立以来、神職養成に一貫して努めてきており、数多くの神職を輩出しています。神道研修事務課は、神職養成に関する実務を行う中核となる部署であり、次のような業務を担当しています。

1．神社実習に関すること
2．神職資格の申請に関すること
3．神社関係への奉職（就職）、助勤（アルバイト）に関すること

神職資格について

神社本庁所属神社の神職となるためには、神社本庁が授与する階位（資格）が必要です。

①階位の種類

階位には、上位より浄階、明階、正階、権正階、直階があります。

②神職任用上の階位の区分

神職に任用される際には、次の階位を取得しておく必要があります。

別表神社（神社本庁より特に指定された神社）	
宮司・権宮司	明階以上を有する者
宮司代務者・禰宜	正階以上を有する者
権禰宜	権正階以上を有する者

別表神社以外の神社	
宮司・宮司代務者	権正階以上を有する者
禰宜・権禰宜	直階以上を有する者

③取得階位

國學院大學在学中に神職課程の所定の単位を修得し、神社実習を修了することによって、「正階（明階検定合格）」を取得することができます。さらに所定の要件を満たし、明階総合課程（⇒p.27）の受講を許可され、所定の単位を取得ならびに神社実習を修了し、神社本庁の審査に合格した者は、「明階（明階検定合格）」を取得できます。

神社実習について

神職の階位を取得しようとする場合、神社本庁「階位検定及び授与に関する規程」の定めに従い、まず階位検定委員会の「検定（学識認定）」に合格したのち、所定の「神務実習」を修了しなければなりません。

しかし、國學院大學においては、卒業に要する単位と神職課程の単位を修得し、かつ本学所定の神社実習を修了することによって、卒業と同時に階位を取得することができます。神職の階位取得に必要な本学所定の神社実習は表のとおりです。実習参加手続等、詳細については４月（２年生以上）または10月（１年生）に開催する説明会でお知らせします。

※神宮実習ならびに中央実習は、明階総合課程（⇒p.27）の履修者のみ該当します。

【神道文化学部・他学部（神職課程）】

実習名	実施場所	実習期間	実習時期等
基礎実習	大学	２日間以上※1	２年生以上は４月に開催。 １年生は６月と11月に分けて開催。参加費不要
指定実習Ⅰ	大学及び明治神宮 （東京都）	８日間以上※1 （内、明治神宮３泊４日）	夏季休暇中。 参加費15,000円（令和７年度）※2
指定実習Ⅱ	大学及び大学が指定した神社 （全国31社）	10日間以上※1 （内、実習神社６泊７日）	夏季休暇中。 参加費26,000円（令和７年度）
指定実習Ⅲ	大学及び大学が承認した神社	12日間以上	随時。参加費不要

※１　事前学習、事前研修会、書類作成日数等を含む。
※２　今後の感染状況の変化等に伴い改定の可能性がある。

【神道文化学部（明階総合課程）】

実習名	実施場所	実習期間	実習時期等
神宮実習※1	神宮（三重県）	５泊６日※2	夏季休暇中（４年次） 参加費25,000円（令和７年度）
中央実習※1	神社本庁（東京都）	２泊３日※2	神宮実習を修了した者。２月下旬から３月中旬（４年次）。 参加費30,000円（令和７年度）

※１　明階総合課程を履修していない学生は、神社本庁が示す実習受講の推薦基準を満たし大学が推薦することで参加できる。
※２　この日程のほかに事前研修会あり。

神社関係への助勤（アルバイト）について

神社からの助勤には、下記のようなものがあり、その都度、神道研修事務課掲示板で募集します。神職資格取得希望者以外の学生にも紹介しています。

なお、神社奉仕に不相応な服装、態度の者は、紹介をお断りしています。

1．祭典等の祭儀補助員（神職資格取得希望者に限る）
2．繁忙時（年末年始等）の社頭奉仕
3．神輿渡御などの行列諸役奉仕
4．神社関係施設での奉仕（授与所等）

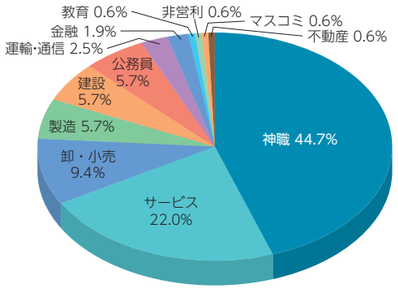
近年、神社界より卒業後すぐに現場で活躍できる人材の要望が高まっているため、所定の神社実習さえ修了すればよいという考え方ではなく、行学一致を心掛けるべく、在学中は積極的に神社関係の助勤に参加して実践的な経験を多く積まれることを強く望みます。

就職について

卒業後の進路

神道文化学部では、就職のためのガイダンス・個別面談・セミナーを軸としたサポート体制を整えており、学年やライフスタイルにあわせた、学部独自のきめ細かな就職サポートもしています。

毎年、神社界にとどまらず、一般企業や官公庁をはじめ、ひろく社会で活躍する人材も数多く輩出しています。



卒業生の進路状況（第133期生 令和７年３月卒）

資格課程

神職以外の資格で、大学の課程で取得できる資格には、次のようなものがあります。
（令和８年度の内容です）

■ 教職課程

中学校教諭一種免許（社会）
高等学校教諭一種免許（公民）／（地理歴史※）　※履修条件によって取得可能な免許

■ その他の資格課程

博物館学芸員　図書館司書　学校図書館司書教諭

資格取得には
綿密な履修計画と、
高い修学意欲・実行力が
必要です。

各種講座について

神道文化学部では、國學院大學出身の神職によって構成される「國學院大學院友神職会」の支援を受け、奉職・就職と「その先」を見据えた、社会人力を高めるための各種講座を開催しています。

これらの講座で、神社での実務的な社務のみならず、一般企業への就職にも活かせるスキルや教養を身に付けることができます。神道文化学部の学生は、無料で受講できます。

書道講座　書道を専門とする本学教員から、墨のすり方・筆の使い方、楷書・行書を学び、基礎を固めます。受講者の書の添削を行います。

マナー講座　身なりをはじめ、挨拶やお辞儀の角度などの初歩的なマナーから、電話の取り方、食事のマナーなど、社会人として必要なビジネスマナー・行儀作法の講義と演習を行います。

衣紋講座　重要な神社祭祀で用いる、単や袍の着装を受講者自らが実践します。指導は、衣紋襞(ひだ)の取り方や装束の畳み方など、詳細に及びます。

和歌講座　和歌を詠むための初歩的な心構えや知識を習得することをはじめ、名歌の鑑賞・解説や、受講生が詠んだ和歌への指導を行う講座です。

御幣講座　神道を象徴する祭具である御幣の由来や役割について学ぶとともに、実際に作製することで、神職になる上で必要な基本的知識や技能を修得します。

書道講座

衣紋講座

御幣講座

Ⅲ　カリキュラムと履修

履修について

卒業に必要な単位

神道文化学部では、90分の授業を前期・後期のいずれか半期履修し、合格の評価を受けると２単位修得できます（例外あり）。

神道文化コースと、宗教文化コースのいずれの学科内コースに属していても、卒業するためには124単位修得することが必要です（各種資格を取得するためには、それより多くの単位が必要です）。

神道文化学部の授業は「共通教育プログラムの科目」「全学オープン科目」「専門教育科目」の３つが設けられています。

124単位以上取得で卒業

共通教育プログラムの科目	全学オープン科目	専門教育科目
（本ページ）	（本ページ）	（⇒p.24・25）
26単位以上		74単位以上

共通教育プログラム

自らの関心のあることだけでなく、大学を卒業した社会人としてふさわしい教養を身に付けるため、國學院大學では「共通教育プログラム」を設け、外国語をはじめ、理系の諸学問やスポーツなど、様々な分野の科目を配置しています。神道文化学部の学生は、共通教育プログラムの科目を履修し、26単位以上修得しなければ卒業できません。

科目群	履　修　方　法
言語スキル科目群	「言語技能とリテラシーズ」「英語」「外国語」科目群から２科目４単位を修得【選択必修】 「英語Ⅰ」～「英語Ⅴ」から４科目８単位を修得【選択必修】
STEM系科目群	「データ・サイエンス」「科学と論理」「まちづくりとエンジニアリング」科目群から２科目４単位【選択必修】
シチズンシップ科目群	９つの科目群から１科目２単位【選択必修】
その他の科目群	専門教養科目群【選択】　國學院科目群※【選択】　ライフデザイン科目群【選択】

（単位は選択科目の一部を除き、すべて半期２単位）
※神道文化学部の学生は「神道と文化」を履修できません。
また、履修に条件のある科目があります。

PCAP・副専攻プログラム・全学オープン科目

國學院大學では、専門以外の分野を体系的に学べるよう、「副専攻プログラム」（修了者には「副専攻修了証」を授与）や卒業後の進路目標を明示したプログラムである「PCAP」（全学共通実践的キャリア開発プログラム）が設けられています。

また、全学オープン科目に指定されている他学部の専門教育科目は、科目単位で履修することができます。

神道文化学部のカリキュラム

その他資格課程

教職課程

神職資格科目

共通教育プログラム（26単位）

言語スキル科目群	「英語Ⅰ～Ⅴ」から４科目を選択	８単位【選択必修】
	「言語技能とリテラシーズ」「英語（上記４科目を除く）」「外国語」の科目群から２科目を選択	４単位【選択必修】
	その他	【選択】
STEM系科目群	「データ・サイエンス」「科学と論理」「まちづくりとエンジニアリング」の科目群から２科目を選択	４単位【選択必修】
シチズンシップ科目群	「法学（日本国憲法）」「政治と社会参加」「法と社会参加」「経済と社会参加」「行政と市民生活」「情報化社会と市民」「スポーツと社会」「共存・共生の思想」「共生社会とコミュニケーション」から1科目を選択	２単位【選択必修】
その他の科目群	全科目（「神道と文化」などを除く）	【選択】

専門教育科目（74単位）

専門基礎科目	全科目	20単位【必修】
基幹講義科目	神道文化科目群	16単位【選択必修】
	宗教文化科目群	
展開科目	神職基幹科目群	20単位【選択必修】
	神道社会実践科目群	
	宗教文化科目群	
	伝統文化科目群	
基幹演習科目	「神道学演習ⅠA・ⅠB」「宗教学演習ⅠA・ⅠB」「神道史学演習ⅠA・ⅠB」	４単位【選択必修】
	「神道学演習ⅡA・ⅡB」「宗教学演習ⅡA・ⅡB」「神道史学演習ⅡA・ⅡB」	４単位【選択必修】
選択科目	基幹講義科目・展開科目・基幹演習科目の超過分または選択科目	10単位
	※明階総合課程を取得する場合（⇒P.27参照）	７科目14単位【必修】

124単位

- 共通教育プログラムの修得単位のうち、26単位を超過した分
- 専門教育科目の修得単位のうち、74単位を超過した分
- PCAP・副専攻プログラム（「神道文化を学ぶ」・「宗教文化」を除く）・全学オープン科目の修得単位

24単位

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

神道文化学部（神道文化学科）における、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）達成を目的とする教育課程（カリキュラム）の編成・実施方針のうち、専門教育に関するものは次の通りです。

CP-1

１・２年次対象の必修講義・演習科目群として「専門基礎科目」を設置。神道を中心とする日本文化や国内外の宗教文化の基礎を学ぶことで、関連する事柄への基本的知識や、史資料に基づく思考力などを身につけることができる。主にDP-A・DP-Cに対応。

CP-2

１～３年次対象の選択必修講義科目群として「基幹講義科目」を設置。神道に関する研究の基本となる知識や関連する史資料に基づく思考力、神道文化を主体的に発信する態度などを身につけるための「神道文化科目群」と、宗教文化に関する基本的知識や、現代社会の諸事象を考察する能力を得るための「宗教文化科目群」で構成。主にDP-A・DP-Bに対応。

CP-3

３・４年次対象の演習科目群として「基幹演習科目」を設置。他の科目群の学びの成果を生かしつつ、主体的な関心に基づく神道文化・宗教文化に関する発表や、学部での学びの集大成となるリポート・論文作成を通じ、社会でも通用するコミュニケーション力や表現力を高めることができる。主にDP-Bに対応。

CP-4

選択講義・実技科目群として「展開科目」を設置。「神職基幹科目群」「神職社会実践科目群」「宗教文化科目群」「伝統文化科目群」で構成され、現代社会との関連性に軸足を置いた神道を中心とする日本文化・国内外の宗教文化の専門的知識・技能のほか、それらを理解し説明できる能力や多角的な視点から考える態度などを身につけることができる。DP-A・DP-B・DP-Cすべてに対応。

CP-5

選択講義・演習科目群として「選択科目」を設置。神道文化・宗教文化とその関連領域に関する専門的ないし多角的な学びを通じ、これらの文化を広く社会に生かすための知識・技能や、主体的に学ぶ態度などを身につけることができる。主にDP-A・DP-Bに対応。

学修成果は、各科目の成績に基づき評価します。評価基準は各科目のシラバスで公開します。

専門教育科目一覧

神道文化学部の教員が担当する科目の一覧。

		授業科目	開講	単位	開講学年 1	開講学年 2	開講学年 3	開講学年 4	卒業に必要な単位	神職階位取得に必要な科目 必修	列ごとに下記単位数分取得 ① 4単位	② 4単位	③ 16単位	年次別履修単位制限の枠外
専門基礎科目		神道概論Ⅰ	半期	2	○				20単位必修	★				
		神道概論Ⅱ	半期	2	○					★				
		神道史学ⅠA	半期	2	○					★				
		神道史学ⅠB	半期	2	○					★				
		古典講読ⅠA	半期	2	○					★				
		古典講読ⅠB	半期	2	○					★				
		宗教学Ⅰ	半期	2	○								☆	
		宗教学Ⅱ	半期	2	○								☆	
		神道文化基礎演習	半期	2	○									
		神道文化演習	半期	2		○								
基幹講義科目	神道文化科目群	祭祀学Ⅰ	半期	2			○		8科目16単位選択必修	★				
		祭祀学Ⅱ	半期	2			○			★				
		神道神学Ⅰ	半期	2			○				☆			
		神道神学Ⅱ	半期	2			○				☆			
		神道史学ⅡA	半期	2		○				★				
		神道史学ⅡB	半期	2		○				★				
		神道思想史学Ⅰ	半期	2		○					☆			
		神道思想史学Ⅱ	半期	2		○					☆			
		古典講読ⅡA	半期	2		○				★				
		古典講読ⅡB	半期	2		○				★				
		国学概論Ⅰ	半期	2		○							☆	
		国学概論Ⅱ	半期	2		○							☆	
	宗教文化科目群	世界宗教文化論Ⅰ	半期	2	○								☆	
		世界宗教文化論Ⅱ	半期	2	○								☆	
		日本宗教文化論Ⅰ	半期	2	○								☆	
		日本宗教文化論Ⅱ	半期	2	○								☆	
		宗教人類学Ⅰ	半期	2	○								☆	
		宗教人類学Ⅱ	半期	2	○								☆	
		宗教考古学Ⅰ	半期	2		○							☆	
		宗教考古学Ⅱ	半期	2		○							☆	
		宗教社会学Ⅰ	半期	2		○							☆	
		宗教社会学Ⅱ	半期	2		○							☆	
		比較文化学Ⅰ	半期	2		○							☆	
		比較文化学Ⅱ	半期	2		○							☆	
基幹演習科目		神道学演習ⅠA	半期	2			○		2科目4単位選択必修					
		神道学演習ⅠB	半期	2			○							
		宗教学演習ⅠA	半期	2			○							
		宗教学演習ⅠB	半期	2			○							
		神道史学演習ⅠA	半期	2			○							
		神道史学演習ⅠB	半期	2			○							
		神道学演習ⅡA	半期	2				○	2科目4単位選択必修					
		神道学演習ⅡB	半期	2				○						
		宗教学演習ⅡA	半期	2				○						
		宗教学演習ⅡB	半期	2				○						
		神道史学演習ⅡA	半期	2				○						
		神道史学演習ⅡB	半期	2				○						

※○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。
※神職階位取得に必要な科目のうち、★は必修、☆は選択必修を示す。
※年次別履修単位制限(CAP制)に基づき、1年間に登録できる履修単位数が年次別に制限されているが、△はCAP制の対象から除外される科目をあらわす。
※この他、選択科目がある。

		授業科目	開講	単位	開講学年 1	開講学年 2	開講学年 3	開講学年 4	卒業に必要な単位	神職階位取得に必要な科目 必修	列ごとに下記単位数分取得 ① 4単位	② 4単位	③ 16単位	年次別履修単位制限の枠外
展開科目	神職基幹科目群	古典講読ⅢA	半期	2			○		20単位	★				
		古典講読ⅢB	半期	2			○			★				
		祝詞作文Ⅰ	半期	2			○			★				
		祝詞作文Ⅱ	半期	2			○			★				
		神社祭祀演習Ⅰ	通年	2		○				★				△
		神社祭祀演習Ⅱ	通年	2			○			★				△
		神社祭祀演習ⅢA	半期	2				○		★				△
		神社祭祀演習ⅢB	半期	2				○		★				△
		神社祭式概論Ⅰ	半期	2	○					★				
		神社祭式概論Ⅱ	半期	2	○					★				
		神社管理研究Ⅰ	半期	2			○			★				
		神社管理研究Ⅱ	半期	2			○			★				
	神道社会実践科目群	神道と社会貢献Ⅰ	半期	2		○						☆		
		神道と社会貢献Ⅱ	半期	2		○						☆		
		神道教化概論Ⅰ	半期	2			○			★				
		神道教化概論Ⅱ	半期	2			○			★				
		宗教行政研究Ⅰ	半期	2			○					☆		
		宗教行政研究Ⅱ	半期	2			○					☆		
		神道と国際交流Ⅰ	半期	2			○						☆	
		神道と国際交流Ⅱ	半期	2			○						☆	
		神道と環境Ⅰ	半期	2		○							☆	
		神道と環境Ⅱ	半期	2		○							☆	
		宗教と文化財保護Ⅰ	半期	2		○						☆		
		宗教と文化財保護Ⅱ	半期	2		○						☆		
	宗教文化科目群	教派神道研究Ⅰ	半期	2			○						☆	
		教派神道研究Ⅱ	半期	2			○						☆	
		キリスト教文化研究Ⅰ	半期	2		○							☆	
		キリスト教文化研究Ⅱ	半期	2		○							☆	
		仏教文化研究Ⅰ	半期	2		○							☆	
		仏教文化研究Ⅱ	半期	2		○							☆	
		中東文化研究Ⅰ	半期	2			○						☆	
		中東文化研究Ⅱ	半期	2			○						☆	
		東アジア文化研究Ⅰ	半期	2			○						☆	
		東アジア文化研究Ⅱ	半期	2			○						☆	
		宗教とこころⅠ	半期	2	○								☆	
		宗教とこころⅡ	半期	2	○								☆	
		宗教文化と現代社会Ⅰ	半期	2		○							☆	
		宗教文化と現代社会Ⅱ	半期	2		○							☆	
		宗教文化とメディアⅠ	半期	2			○						☆	
		宗教文化とメディアⅡ	半期	2			○						☆	
	伝統文化科目群	宗教芸術研究Ⅰ	半期	2			○						☆	
		宗教芸術研究Ⅱ	半期	2			○						☆	
		宗教音楽研究Ⅰ	半期	2			○					☆		
		宗教音楽研究Ⅱ	半期	2			○					☆		
		神道と武道Ⅰ	半期	2		○							☆	
		神道と武道Ⅱ	半期	2		○							☆	
		神道と書道Ⅰ	半期	2			○					☆		
		神道と書道Ⅱ	半期	2			○					☆		

専門教育科目の履修について

（　）の数字は単位数

	神職資格を取得しない場合	神職資格を取る場合	明階総合課程を履修する場合
共通教育プログラム	26単位		
専門教育科目	専門基礎科目(20) ・基幹講義科目(16) ・基幹演習科目(8) ・展開科目(20) 上記超過分または選択科目(10) ●共通教育プログラム(26単位)、専門教育科目(74単位)の卒業要件単位を超過して履修した分 ●全学オープン科目	「神道文化基礎演習」(2)、「神道文化演習」(2)、基幹演習科目(8)に加えて神職資格課程に必要な科目76単位を取得する	
			明階総合課程に必要な選択科目(14)

神職資格を取得する場合、専門教育科目は88単位を取得することになり、これに共通教育プログラム26単位を合わせて、卒業に必要な単位124単位の大部分を充たすことになります。

さらに明階総合課程や教職資格など他の資格※を取得する場合は、要卒単位以上の単位を取得する必要があります。

選択必修科目の選び方や資格科目の履修の仕方の例として、次ページ以降に**履修モデル(A～E)**を掲げましたので、参考にしてください。

※教職課程など資格取得の履修については、履修要項を参照してください。

履修モデルについて

カリキュラムは必修科目を除き、学生は自由に科目を選択して必要な単位数を修得することができますが、神道文化学部では学生が学問的関心に根差して履修が組めるよう基幹講義科目、展開科目、全学オープン科目の履修について、A～Eの履修モデルを作成しています。

▶ p.28以降に掲げる履修モデルのうち、A・B・Cは神職資格課程の履修を視野に入れたものであり、D・Eはそれ以外のモデルとなっています。

▶ 履修モデルは、専門教育科目の選択必修科目となる授業について、学問の関心に沿った一例として掲げているものですので、必ずしも、いずれかの履修モデルに合致させなければならないということではなく、科目は主体的に選択することができます。

履修モデルA	古代・中世の神道史	⇒ p.28
履修モデルB	近世・近代の神道史	⇒ p.28
履修モデルC	神職・神社に関わる社会的実践	⇒ p.29
履修モデルD	宗教文化や宗教学研究	⇒ p.29
履修モデルE	日本の伝統文化・基層文化	⇒ p.30

履修モデルにおける履修表

授業科目区分		1年	2年	3年	4年	単位数※
共通教育プログラム						26
専門教育科目	専門基礎科目	神道概論Ⅰ・Ⅱ(4) 神道史学ⅠA・ⅠB(4) 古典講読ⅠA・ⅠB(4) 宗教学Ⅰ・Ⅱ(4) 神道文化基礎演習(2)	神道文化演習(2)			20
	基幹講義科目					
	基幹演習科目			神道学演習IA･IB(4)→ 宗教学演習IA･IB(4)→ 神道史学演習IA･IB(4)→ 何れかを選択	神道学演習IIA･IIB(4)→ 宗教学演習IIA･IIB(4)→ 神道史学演習IIA･IIB(4)→	8
	展開科目					
	選択科目					
全学オープン科目						

▶次ページ以降に掲げるA～Eの履修モデルの履修表は、赤い枠内の科目について具体的に示したもので、それぞれのモデルで修得する単位数も異なっている。

※履修表の科目のうち、共通教育プログラム、専門基礎科目、選択科目については4年間で取得する単位数のみ記載している。また、各科目の修得単位数が要卒単位を超えている場合は赤字で示している。

神職資格課程を取得する場合

神職資格取得に必要な科目(必修科目、選択必修科目等)は、「神道文化基礎演習」「神道文化演習」「基幹演習科目」を除いた専門教育科目にすべて配置されています(⇒p.24・25)。

これらの科目をすべて修得すると、専門教育科目の必修・選択必修の科目を含めて88単位となり、共通教育プログラムの26単位と合わせて卒業に必要な124単位のうち114単位を取得することが可能です。

共通教育プログラム				26単位
専門教育科目(74単位以上)	「神道文化基礎演習」・「神道文化演習」・基幹演習科目		12単位	88単位
	神職階位取得に必要な科目	◎必修　52単位	76単位	
		選択必修①　4単位		
		選択必修②　4単位		
		選択必修③　16単位		

計114単位

明階総合課程について

本課程は4年次に開講される課程です。卒業と同時に指導的神職として活躍できる人材を育成することを目的として設置されており、本課程を修了した後、神社本庁の成績審査に合格すれば、「明階」の資格が授与されます。

【明階総合課程開講講座表】

	神社本庁規程	授業科目	単位	開講区分	備考
必修	皇室・神宮に関する講義	祭祀学特殊講義	2	半期	講義
	神道教学・教化に関する講義または演習	神道教学特論	2	半期	講義
		神道教化システム論	2	半期	演習
	祭祀実技に関する講義または演習	神社祭式特論	2	半期	演習
	神社の管理運営に関する講義または演習	神社管理特論	2	半期	講義
		神社実務演習	2	通年	講義
	現代思潮に関する講義	現代時局論	2	半期	講義

※本課程は特定の条件を満たし、さらに神職を目指す意志の強固なものに限られます。受講資格や履修手続などの詳細については、入学時に配布される『履修要綱』をご覧ください。

履修モデル A

—神道の歴史（古代・中世）を
学びたい学生—

古代・中世の神社・古典や祭祀に関する学修を中心とした履修モデルです。
１・２年次には、必修科目である「神道史学ⅠA・ⅠB」により古代・中世の神道史の基礎知識を養い、「日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ」で日本の共同体と儀礼文化に関して、「宗教考古学Ⅰ・Ⅱ」で神社や祭祀の起源について学び、３・４年次からは「神道史学演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」により、文献の読解方法や個別のテーマに即した調査研究の仕方などを身につけ、日本の歴史における神道の位置づけや意義について考察を深めます。
この履修モデルは、神道を形成する伝統文化や歴史を説明できる神職を志す学生の履修に適しています。

【神職課程の履修モデル】

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数
共通教育プログラム			(26)				26
専門教育科目	専門基礎科目		(18)	(2)			20
	基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 古典講読ⅡA・ⅡB	祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ		24
		宗教文化科目群	日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ	宗教考古学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目群	神道文化科目群			神道史学演習ⅠA・ⅠB	神道史学演習ⅡA・ⅡB	8
		宗教文化科目群					
	展開科目	神職基幹科目群	神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習Ⅰ	古典講読ⅢA・ⅢB 祝詞作文Ⅰ・Ⅱ 神社祭祀演習Ⅱ 神社管理研究Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習ⅢA・ⅢB	48
		神道社会実践科目群			神道教化概論Ⅰ・Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ	宗教と文化財保護Ⅰ・Ⅱ	
		宗教文化科目群					
		伝統文化科目群		仏教文化研究Ⅰ・Ⅱ	宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ	神道と書道Ⅰ・Ⅱ	
	選択科目						0
全学オープン科目							0
							126

※赤字は卒業に必要な単位（要卒単位）を超過する部分を示す。

履修モデル B

—神道の歴史（近世・近代）を
学びたい学生—

近世・近代の神道思想や思想史に関する学修を中心とした履修モデルです。
神職課程の必修科目である「神道史学ⅡA・ⅡB」により近世・近代の神道の歴史についての基礎を学ぶことを前提に、近世ではさらに「国学概論Ⅰ・Ⅱ」、「神道思想史学Ⅰ・Ⅱ」などで国学や神道思想の展開を学び、近代については「宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ」、「教派神道研究Ⅰ・Ⅱ」などで、より専門的に近代神道の歴史的変遷を学びます。３・4年次には、「神道史学演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」において近世・近代の神道史上におけるさまざまな具体的課題を探求します。
この履修モデルは、現代の神社のあり方や神道教学の基礎となる近世・近代の神道史および国学・神道思想を熟知し、社頭での活動でも実践できる神職を目指す学生の履修に適しています。

【神職課程の履修モデル】

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数
共通教育プログラム			(26)				26
専門教育科目	専門基礎科目		(18)	(2)			20
	基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 神道思想史学Ⅰ・Ⅱ 古典講読ⅡA・ⅡB 国学概論Ⅰ・Ⅱ	祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ		24
		宗教文化科目群					
	基幹演習科目群	神道文化科目群			神道史学演習ⅠA・ⅠB	神道史学演習ⅡA・ⅡB	8
		宗教文化科目群					
	展開科目	神職基幹科目群	神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習Ⅰ	古典講読ⅢA・ⅢB 祝詞作文Ⅰ・Ⅱ 神社祭祀演習Ⅱ 神社管理研究Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習ⅢA・ⅢB	48
		神道社会実践科目群		神道と社会貢献Ⅰ・Ⅱ	神道教化概論Ⅰ・Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ	宗教と文化財保護Ⅰ・Ⅱ	
		宗教文化科目群			教派神道研究Ⅰ・Ⅱ	宗教文化とメディアⅠ・Ⅱ	
		伝統文化科目群					
	選択科目						0
全学オープン科目							0
							126

※赤字は卒業に必要な単位（要卒単位）を超過する部分を示す。

履修モデル C

—神道の社会的実践を
学びたい学生—

現代社会における神道に関する学修を中心とした履修モデルです。
「神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ」や「神社祭祀演習Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB」で祭式の知識や作法を修得し、「神社管理研究Ⅰ・Ⅱ」や「神道教化概論Ⅰ・Ⅱ」で神社実務、神道教化など、神職としてのさまざまな実践の技能を身に付けます。さらに、「神道と社会貢献Ⅰ・Ⅱ」で文化財保護・まちづくり・地域福祉に関する行政・教育機関・福祉団体・NPOなどとの連携を学び、現代における神社の社会的役割を自らが担い手となって果たしていくための能力と意欲を高めていきます。
この履修モデルは、地域社会で即戦力として役立つ能力をそなえた神職を目指す学生の履修に適しています。

【神職課程の履修モデル】

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数
共通教育プログラム			(26)				26
専門教育科目	専門基礎科目		(18)	(2)			20
	基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 古典講読ⅡA・ⅡB 国学概論Ⅰ・Ⅱ	祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ		24
		宗教文化科目群		宗教社会学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目群	神道文化科目群			神道学演習ⅠA・ⅠB	神道学演習ⅡA・ⅡB	8
		宗教文化科目群					
	展開科目	神職基幹科目群	神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習Ⅰ	古典講読ⅢA・ⅢB 祝詞作文Ⅰ・Ⅱ 神社祭祀演習Ⅱ 神社管理研究Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習ⅢA・ⅢB	52
		神道社会実践科目群		神道と社会貢献Ⅰ・Ⅱ	神道教化概論Ⅰ・Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ	神道と環境Ⅰ・Ⅱ 神道と国際交流Ⅰ・Ⅱ	
		宗教文化科目群					
		伝統文化科目群			宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ	神道と書道Ⅰ・Ⅱ	
	選択科目						0
全学オープン科目・副専攻							0
							130

※赤字は卒業に必要な単位（要卒単位）を超過する部分を示す。

履修モデル D

—宗教文化を広く学びたい学生—

宗教文化科目を中心に履修するモデルです。
宗教について全般的な知識を学びながら、世界の諸文化への理解を深め、「宗教社会学Ⅰ・Ⅱ」や「比較文化学Ⅰ・Ⅱ」などにより学問的な視野をひろげます。３・4年次では、「宗教文化調査基礎」や「宗教学演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」での調査・発表や議論を通じて、さまざまな宗教文化に関する研究調査法を修得しつつ、プレゼンテーション能力を磨きます。
国際化・グローバル化が進む現代社会のなかで、異文化との相互理解の上で、自文化を説明する能力が求められる職種を志望する学生に適しています。

【「宗教文化士」の資格取得を視野に入れた履修モデル】

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数
共通教育プログラム			(26)				26
専門教育科目	専門基礎科目		(18)	(2)			20
	基幹講義科目	神道文化科目群					20
		宗教文化科目群	世界宗教文化論Ⅰ・Ⅱ 日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ 宗教人類学Ⅰ・Ⅱ	宗教社会学Ⅰ・Ⅱ 比較文化学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目群	神道文化科目群					8
		宗教文化科目群			宗教学演習ⅠA・ⅠB	宗教学演習ⅡA・ⅡB	
	展開科目	神職基幹科目群					48
		神道社会実践科目群		神道と社会貢献Ⅰ・Ⅱ 神道と環境Ⅰ・Ⅱ	宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ 神道と国際交流Ⅰ・Ⅱ		
		宗教文化科目群		キリスト教文化研究Ⅰ・Ⅱ 仏教文化研究Ⅰ・Ⅱ 宗教文化と現代社会Ⅰ・Ⅱ	教派神道研究Ⅰ・Ⅱ 中東文化研究Ⅰ・Ⅱ 東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ	宗教文化とメディアⅠ・Ⅱ	
		伝統文化科目群				宗教芸術研究Ⅰ・Ⅱ	
	選択科目				宗教文化調査基礎		2
全学オープン科目							0
							124

※赤字は卒業に必要な単位（要卒単位）を超過する部分を示す。

履修モデル E

—日本の伝統文化を
学びたい学生—

日本の伝統文化、基層文化に関心をもつ学生のための履修モデルです。
神道を中心に、民俗・慣習・社会規範などにあらわれる日本の伝統文化・基層文化について学び、さらに東アジアをはじめ異文化社会との比較を通じて、日本文化に関する理解を深めていきます。また、武道、書道、芸術、音楽などを体験的に学ぶ機会を得ることもできます。

【「宗教文化士」の資格取得を視野に入れた履修モデル】

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数
共通教育プログラム			(26)				26
専門教育科目	専門基礎科目		(18)	(2)			20
	基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 古典講読ⅡA・ⅡB	祭祀学Ⅰ・Ⅱ		20
		宗教文化科目群	日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ	宗教考古学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目群	神道文化科目群					8
		宗教文化科目群			宗教学演習ⅠA・ⅠB	宗教学演習ⅡA・ⅡB	
	展開科目	神職基幹科目群			古典講読ⅢA・ⅢB		36
		神道社会実践科目群		神道と社会貢献Ⅰ・Ⅱ	神道と環境Ⅰ・Ⅱ	宗教と文化財保護Ⅰ・Ⅱ	
		宗教文化科目群			東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ		
		伝統文化科目群		神道と武道Ⅰ・Ⅱ	宗教芸術研究Ⅰ・Ⅱ	宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ 神道と書道Ⅰ・Ⅱ	
	選択科目						0
全学オープン科目				文化人類学Ⅰ・Ⅱ	伝承文学史Ⅰ・Ⅱ 日本民俗学Ⅰ・Ⅱ	伝承文学思想	14
							124

※赤字は卒業に必要な単位(要卒単位)を超過する部分を示す。

宗教文化士について

「宗教文化士」とは、日本や世界の宗教の歴史と現状について、一定の理解を得た人に対して与えられる資格です。とくに社会の中で活かせる知識を養っていることが求められます。
資格を得るためには、大学において次の３つの到達目標に対応した科目合計12単位以上を履修し、認定試験に合格することが必要です。

1. 教えや儀礼、神話を含む宗教文化の意味について理解できる。
2. キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、神道などの宗教伝統の基本的な事実について、一定の知識を得ることができる。
3. 現代人が直面する諸問題における宗教の役割について、公共の場で通用する見方ができる。

詳しくは、宗教文化教育推進センターのホームページをご覧ください。
www.cerc.jp

演習について

大学の授業の形式には、教員が教壇に立ち、学生に向かって話しながら進めていく「講義」のほかに、教員が与えた課題やテーマについて、学生が自分で調べたことを発表し、またほかの学生の発表を聴いて質疑応答や議論を行う「演習」があります。
神道文化学部では、このような演習科目が４年間のカリキュラムのなかに連続して設定されています。すなわち、１年次に「神道文化基礎演習」、２年次に「神道文化演習」、３・４年次には「神道学演習」、「宗教学演習」、「神道史学演習」のいずれかの基幹演習科目を履修します。

1年次	2年次	3・4年次
神道文化基礎演習	神道文化演習	基幹演習 神道学演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 宗教学演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 神道史学演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB
神道の基礎的知識の修得 →	研究領域の理解 →	テーマの主体的探究
	文献資料の検索法修得 →	専門的調査研究能力の修得
発表の経験 →	発表能力の向上 →	発表・討議の実践
読み書き表現能力の修得 →	読み書き表現能力の向上 →	中間リポート・演習論文の執筆

神道文化基礎演習 1年次　神道文化・宗教文化を学ぶ基礎力を身に付ける

これからの大学生活において、神道を中心とする日本の伝統文化や内外のさまざまな宗教文化を学習・研究していく上で必要な基礎学力を修得します。
具体的には、神道の基礎知識についての小テストの実施や課題図書に対する読後リポートの作成、神道や宗教に関する発表などを行います。とくに発表に臨んでは、レジュメの作成方法や発表の手法を学んだ後、グループワークなどを行って、発表の内容を深めていきます。
このほか、神道資料が展示されている國學院大學博物館を見学し、モノを通じて神道の歴史を学びます。

神道文化演習 2年次　専門演習への架け橋、基礎学力を確実なものにする

神道・宗教に関する文献や資料をもとに調査研究を進め、その成果についてレジュメやリポートを作成し、発表を行います。これにより、文献・資料の調査能力や読解力、レジュメ・リポートの作成能力、発表でのプレゼンテーション能力をさらに向上させるとともに、３年次以降に専門的な研究を行っていく上で基盤となる能力を培います。
また、奉職･就職に関するガイダンスも開催され、３年次以降本格化する奉職･就職活動に備えます。

基幹演習科目 3・4年次　主体的な関心に基づき、本格的な学修を進める

神道・宗教に関するテーマを設定して専門的な調査研究を行い、その成果を発表するとともに、リポート・論文を作成します。
具体的には、自らがテーマと研究計画を立て、担当教員の指導を受けながら調査研究を進めていき、発表においては、ほかの学生との議論を通じて互いに問題関心を共有しつつ、研究を深めていきます。通常３年次に中間リポート(6,000字以上)、４年次の最後には演習論文(12,000字以上)を作成し、大学生活の集大成となる研究成果をまとめあげます。

資料室・修学相談室について

神道文化学部資料室

神道文化学部では、学生が専門的な文献に身近に接することのできる環境として、各種資料を資料室に所蔵し、閲覧できるようにしています。資料室員がおりますので、お気軽におたずねください。

- **場　　所：**渋谷キャンパス若木タワー17階
- **利用時間：**(月～土)9：00～17：00
- **閉 室 日：**隔週土曜日、日曜日、祝日、大学の行事日
- **利用対象者：**本学教職員、学生、本学図書館の紹介者
- **利用方法：**所蔵資料の閲覧、複写(学内施設でのコピー)
- **検索方法：**國學院大學図書館OPAC“K-aiser”を利用してください。資料室所蔵資料の書誌データも収録されています。

- 開室日・開室時間は臨時に変更される場合があります。扉の掲示等で告知しますので、適宜ご確認ください。
- 資料室には、古典・神道史・神社史などの専門図書・雑誌があり、利用時間内であれば閲覧できます。
- 本の貸し出しは致しません(コピーは可、コピー持ち出しをした場合は、その日の資料室閉室時間までに返却してください)。
- 和綴本のコピーはできません。

神道文化学部資料室入口

神道文化学部修学相談室

神道文化学部修学相談室では、学務補助員が学部生のみなさんの履修・勉学上の相談に応じています。履修登録、演習科目選択、授業や論文・リポートに関する疑問についてアドバイスします。また、演習で使用するレジュメ(資料)のコピーも受け付けています。大学生活における疑問等にもおこたえしておりますので、お気軽におたずねください。

- **場　　所：**渋谷キャンパス若木タワー17階
- **利用時間：**10：00～18：00
- **閉 室 日：**土・日曜日、祝日、大学の行事日、夏期・冬期休暇、２・３月

- 開室日・開室時間は変更される場合があります。扉の掲示等で告知しますので、適宜ご確認ください。

修学相談室入口

オフィスアワーについて

神道文化学部では、専任教員が学生の修学に関する相談に対応できるようにオフィスアワーを設けています。

オフィスアワーの曜日・時間帯は年度により異なりますので、神道文化学部資料室前の掲示をご確認ください。

Ⅳ　入学案内

アドミッション・ポリシー

求める人材、期待される入学者像

國學院大學神道文化学部は、神道を中心とする日本文化への高い関心と、国内外の宗教文化を広く学ぼうとする意欲とを持ち、宗教・文化の継承者として、人々の共存や社会の発展に寄与しようとする人材を受け入れます。

具体的には、次のような意欲・意志を持って、学びの成果を社会に活かそうとしている人材を求めています。

（1）　神道の歴史・思想を学ぶ意欲を持つ者
（2）　神道の社会的実践・社会貢献について学ぶ意欲を持つ者
（3）　日本の伝統文化を深く学ぶ意欲を持つ者
（4）　世界の宗教文化を広く学ぶ意欲を持つ者
（5）　神社や神道系宗教団体の後継者として専門的な学びを志す者
（6）　現代社会の文化と宗教との関係について広く学ぶ意欲を持つ者

入学者選考の観点

人材受け入れのため、次の観点から受験生を選考します。

(AP１)神道を中心とする日本文化や国内外の宗教文化(以下「神道文化・宗教文化」)に関わる授業を履修するために必要となる高等学校卒業相当の知識と文章表現のための技能を身につけているか。〈知識・技能〉

(AP２)他者の考えを的確に理解し、自らの考えを理論的かつ簡潔にまとめ、ことばで正確に表現できる能力を有しているか。〈思考力・判断力・表現力〉

(AP３)神道文化・宗教文化を幅広く学ぼうとする意欲を持っているか。また、神道文化・宗教文化の学びの成果を活かして、社会への貢献を目指す意志を持っているか。〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉

※具体的な入試制度と観点との関連は別表(⇒p.34・35)の通りです。

入学までに身に付けるべき教科・科目

神道文化学部に入学する学生には、入学後の教育内容との関係上、「国語」「地理歴史」「公民」「外国語(英語)」の学習を求めます。

神道文化学部の入試制度

入試制度		選考方法		評価の観点 AP1	評価の観点 AP2	評価の観点 AP3	備考	令和９年度入試（令和８年・９年〈2026・27〉実施） 出願期間	令和９年度入試（令和８年・９年〈2026・27〉実施） 試験日	特色
総合型選抜	神道・宗教特別選考（Ⅰ期・Ⅱ期）	１次選考	調査書	◎	○	○	神道文化学部の学修に必要な学力、特に、神社・宗教団体の担い手となる意志を持って学ぶ態度を有する受験生を選考します。面接試験・志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。小論文試験では、主に思考力・表現力を問います。	【Ⅰ期】9月11日(金)～9月17日(木) 【Ⅱ期】2月4日(木)～2月9日(火)	(書類選考)	神道特別選考は神社神職の子女で、自身も神職として神明奉仕をする使命を持つ受験生を選考します。入学した場合は神職課程の履修が義務付けられています。宗教特別選考は神道系教団を担う方々の子女で、自身も教団を継承する使命を持つ受験生を選考します。
			志望理由書		○	◎				
			活動レポート		○	◎				
			英語検定試験	◎						
		２次選考	小論文試験	○	◎				【Ⅰ期】10月18日(日) 【Ⅱ期】3月2日(火)	
			面接試験		○	◎				
	神職養成機関（普通課程）特別選考	志望理由書			○	◎	神社神職になる意志を持って学ぶ態度を有しているかどうかに主眼を置いた選考をします。	9月11日(金)～9月17日(木)	10月18日(日)	神職課程で資格を取得する意志を持つ、全国の神職養成機関出身者を選考します。
		面接試験			○	◎				
	公募制自己推薦（AO型）（社会人含む）※	１次選考	調査書	◎	○	○	神道文化学部での学修に必要な総合的な学力を持つ受験生を選考します。志望理由書・面接試験等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。筆記試験では、主に神道・宗教に関する文章の読解・思考力・表現力のための技能を問います。	9月28日(月)～10月2日(金)	10月18日(日)	神道文化学部の学びへの興味・関心と修学意欲を高く評価します。次のいずれかを学びたいことが出願要件です。 ①古代の神道史・神社の学修・研究　②近世・近代の神道思想や制度の学修・研究　③祭式・神社実務の学修・研究　④宗教・宗教文化の学修・研究　⑤比較宗教文化・国際化の学修・研究　⑥現代社会と宗教、宗教理論の学修・研究
			志望理由書		○	◎				
			活動レポート		○	◎				
			英語検定試験	◎						
			筆記試験	○	◎					
		２次選考	面接試験		○	◎			11月15日(日)	
	院友子弟等特別選考	１次選考	調査書	◎	○	○		9月1日(火)～9月7日(月)	(書類選考)	院友会の会員の親族等で、神道文化学部を第１志望とする受験生を選考します。
			志望理由書		○	◎				
			活動レポート		○	◎				
			英語検定試験	◎						
			課題図書に基づくレポート	◎	○					
		２次選考	筆記試験	○	◎			10月5日(月)～10月9日(金)	10月18日(日)	
			面接試験		○	◎				
	外国人留学生	志望理由書			○	◎	面接試験・志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。小論文試験では、主に思考力・表現力を問います。	【国外】10月9日(金)～10月16日(金) 【国内】10月9日(金)～10月15日(木)	11月29日(日)	外国籍で所定の資格を有する受験生を選考します（日本の高校を卒業した方は出願できません）。
		活動レポート			○	◎				
		日本語小論文試験		○	◎					
		面接試験			○	◎				
学校推薦型選抜	指定校制推薦	調査書		◎	○	○	面接試験・志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。	11月1日(日)～11月9日(月)	11月29日(日)	本学が指定する高校に在学し、神道文化・宗教文化を進んで学ぶ意欲を持つ受験生を選考します。
		志望理由書			○	◎				
		活動レポート			○	◎				
		推薦書		○	○	○				
		面接試験			○	◎				
	協定校推薦 ※本学と協定を結んだ高等学校（協定校）の生徒のみ対象	調査書		◎	○	○	面接試験・志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。授業レポートでは、主に知識や文章表現のための技能を問います。	11月1日(日)～11月9日(月)	11月29日(日)	本学と協定を締結している高校に在学し、神道文化・宗教文化を進んで学ぶ意欲を持つ受験生を選考します。
		志望理由書			○	◎				
		活動レポート			○	◎				
		推薦書		○	○	○				
		授業レポート		◎	○					
		面接試験			○	◎				
	系列三高校推薦	調査書		◎	○	○	本学系列三高等学校の学校長の推薦に基づいて、神道文化学部での学修に必要な総合的な学力を持つ受験生を選考します。志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。	11月1日(日)～11月9日(月)	(書類選考)	本学の系列にある高校（國學院高等学校・國學院久我山高等学校・國學院栃木高等学校）に在学し、神道文化・宗教文化を進んで学ぶ意欲を持つ受験生を選考します。
		志望理由書			○	◎				
		活動レポート			○	◎				
		推薦書		○	○	○				
		資格・検定試験の成績		◎						
	スポーツ推薦	調査書		○			神道文化学部での学修に必要な総合的な学力を持ち、かつ運動競技において活躍が期待される受験生を選考します。面接試験等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。事前課題では、主に思考力・表現力を問います。	11月1日(日)～11月9日(月)	11月26日(木)	スポーツ競技で秀でた技量を持ち、神道文化学部の学びに関心を持つ受験生を選考します。
		推薦書		○	○	○				
		事前課題			○	◎				
		面接試験				○				
一般選抜	V方式	大学入学共通テスト		◎	○		神道文化学部での学修に必要な知識や表現力を持つ受験生を選考します。	1月4日(月)～1月15日(金)	1月16日(土)・17日(日)	大学入学共通テストを利用する入試です。神道文化学部は、外国語と国語が必須で、地理歴史・公民・数学のうち高得点の１科目を選択します。
	A日程（３教科型・最高得点科目重視型・学部学科特色型／英語外部試験利用型）	個別学力試験		◎	○			1月4日(月)～1月21日(木)	【３教科型】2月2日(火) 【最高得点科目重視型】2月3日(水) 【学部学科特色型／英語外部試験利用型】2月4日(木)	外国語・選択科目（日本史、世界史、政治・経済、数学）・国語の３科目による入試です。最高得点科目重視型は、３科目の中で最高成績の科目を高く評価します。学部学科特色型／英語外部試験利用型は、国語を必須とし、英語と選択科目の中で成績上位の科目との２科目で選考し、英語外部試験利用型は国語と選択科目の中のうち成績上位の１科目に基づき選考します。
	B日程	個別学力試験		◎	○			1月4日(月)～2月19日(金)	3月2日(火)	外国語と国語の２科目による入試です。
3年次編入	学士・一般編入学	１次選考	活動レポート		○	◎	神道文化学部での学修に必要な総合的な学力を持つ受験生を選考します。面接試験では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。筆記試験では、主に神道・宗教に関する文章の読解・思考力・表現力のための技能を問います。	9月28日(月)～10月2日(金)	10月18日(日)	他大学や短大卒業等（専門学校は除く）の受験生を選考します。
			筆記試験	○	◎					
		２次選考	面接試験		○	◎			11月15日(日)	
	系列編入学	各種証明書等		○	○	○	本学系列短期大学部の推薦に基づき、神道文化学部での学修に必要な総合的な学力を持つ受験生を選考します。	10月19日(月)～10月23日(金)	(書類選考)	本学系列北海道短期大学部の推薦に基づき選考します。
		活動レポート			○	◎				

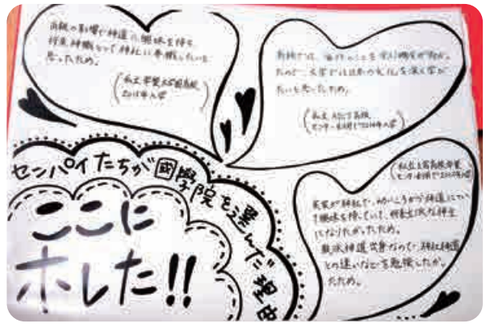
※○は重視する観点、◎は特に重視する観点です。
評価の観点は次の通りです。
（AP１）神道を中心とする日本文化や国内外の宗教文化（以下「神道文化・宗教文化」）に関わる授業を履修するために必要となる高等学校卒業相当の知識と文章表現のための技能を身につけているか。〈知識・技能〉
（AP２）他者の考えを的確に理解し、自らの考えを理論的かつ簡潔にまとめ、ことばで正確に表現できる能力を有しているか。〈思考力・判断力・表現力〉
（AP３）神道文化・宗教文化を幅広く学ぼうとする意欲を持っているか。また、神道文化・宗教文化の学びの成果を活かして、社会への貢献を目指す意志を持っているか。〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉

※社会人（令和９年４月１日現在で満22歳以上である者）は履歴書の提出が必要となります。
※詳細な出願資格など、入試制度の詳細は必ず入学試験要項を入手して下さい。
※入試制度に関する問い合わせ先：総合企画部入学課（03-5466-0141）

オープンキャンパス　渋谷キャンパスで開催（神道文化学部）

令和８年

８月１日（土）・２日（日）・22日（土）



神道文化を体験したい

授業の様子を知りたい

模擬授業

学生生活・就職（奉職）など いろいろ聞きたい

個別相談ブース

入試の説明を聞きたい

入試説明会

オープンキャンパスで行われる内容は、日程によって異なります。
詳細はウェブページでご確認ください。
https://www.kokugakuin.ac.jp

神道文化学部
ホームページ

神道文化学部では、ホームページを開設しています。
学部の行事やイベントの案内をはじめ、神道文化学部を身近に感じてもらえる情報を発信しています。

神道文化学部ホームページ
https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/shinto

このガイドブックの記載内容は、令和８年度新入学生や、令和９年度入学者選抜に関するものとなっています。カリキュラムや、奨学金等の学生支援の制度、および選抜方法などは、年度によって変更する場合がありますので、ご注意ください。

こくぴょん

「こくぴょん」は國學院大學の公式キャラクターです。
神道文化学部のこくぴょんは舞楽装束に身を包み、伝統文化を重んじるイメージとメッセージを体現しています。

令和８年度　國學院大學
神道文化学部 神道文化学科
GUIDE BOOK
ガイドブック

令和８年（2026）４月１日　発行

編　　集　國學院大學神道文化学部教務委員会
　　編集担当　柏木亨介　加藤久子
発 行 者　國學院大學神道文化学部
　　学 部 長　黒崎浩行
　　〒150-8440　東京都渋谷区東四丁目10番28号
印 刷 所　株式会社　秀飯舎

表紙・裏表紙写真　武田秀章撮影
写　　真　武田秀章　総合企画部広報課
　　神道文化学部教員・学生有志

＊無断複製を禁じます。